五六

大正十一年四月十一日
可済
十一年四月二十日

法律四七

陸甲一

一 競馬法ヲ定ム

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣
内務大臣
大藏大臣
陸軍大臣
海軍大臣
司法大臣
文部大臣
農商務大臣
遞信大臣
鐵道大臣

四月九日

別紙両院ノ議決ヲ經タル競馬法案ヲ審査スルニ右ハ衆議院議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

法律案

法制局

六五

陸甲一

大正十二年三月二十九日　内閣書記官長　内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣　内務大臣

大藏大臣　陸軍大臣

海軍大臣　司法大臣

文部大臣　農商務大臣

遞信大臣　鐵道大臣

別紙両院ノ議決ヲ經タル競馬法案ヲ審査スルニ右ハ衆議院議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

法律案

法制局

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル競馬法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

攝政名

大正十二年四月九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

農商務大臣

法律第四十七號

上奏案ノ通

附箋

陸甲一

陸 一 三月廿六日

別紙奏上有之度候也

大正十二年三月二十四日

衆議院議長 粕谷義三

内閣總理大臣男爵加藤友三郎殿

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル競馬
法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

攝政名

大正十二年四月九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

農商務大臣

法律第四十七號

上奏案ノ通

付箋

農商務大臣副署ヲ
候ニ付可然ノ取計
法制局

法制局

陸甲一

陸 一 三月廿六日

別紙奏上有之度候也

大正十二年三月二十四日

衆議院議長 粕谷義三

内閣總理大臣 男爵 加藤友三郎殿

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル競馬法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

攝政名

大正十二年四月九日

内閣總理大臣

陸軍大臣

農商務大臣

法律第四十七號

上奏案ノ通

付箋

務大臣副署ヲ候ニ付可然取計

法制局

陸甲一

陸　一　三月廿六日

別紙奏上有之度候也

大正十二年三月二十四日

衆議院議長　粕谷義三

内閣總理大臣　男爵　加藤友三郎殿

衆議院書記官長　寺田榮

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル競馬法案ノ裁可ヲ奉請ス

大正十二年三月二十四日

衆議院議長粕谷義三

国立公文書館
National Archives of Japan

衆議院書記官長寺田榮

競馬法

第一條 馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依ル競馬ヲ行フコトヲ得

第二條 年三回以上競馬ヲ開催セムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

競馬ノ開催ハ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ年三回開催スルコトヲ得

競馬開催ノ期間ハ毎回四日内トス

第三條 競馬ヲ開催スルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徴收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル

勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條　第一條ノ法人ハ勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍內ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法竝前條ノ拂戻金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第九條　主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十條　第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一條ノ法人ハ每事業年度終了後三月內ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十一條　第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

国立公文書館
National Archives of Japan

二　勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限
三　役員ノ解任

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
二　第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
二　第五條ノ規定ニ違反シタル者
三　第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
四　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者
五　第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ勝馬投票券ヲ購買シタル者
二　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者
三　第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
三四　勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者
四五　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戾金ノ交付ヲ受ケタル者

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ニ依ル競馬ヲ行フ法人ノ數ハ當分ノ内十一以内トス

競馬法案帝國議會ニ提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十二年十二月十四日

内閣總理大臣男爵加藤友三郎

陸甲一

大正十二年二月九日　内閣書記官長　内閣書記官

二月十四日裁可

内閣總理大臣　　法制局長官

外務大臣　大藏大臣　海軍大臣　文部大臣　遞信大臣

内務大臣　陸軍大臣　司法大臣　農商務大臣　鐵道大臣

別紙陸軍大臣請議競馬法案ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法制局

法律案

呈案附箋ノ通

法制局

競馬法案

右勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十二年三月三日（衆）

内閣總理大臣

陸軍大臣

法制局

参照

・民法 明治二十九年四月法律第八十九號

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト為スコトヲ得

●競馬規程

明治四十一年十一月十六日
閣令第一號

改正 四三年第一〇號、四五年第六號

競馬規程左ノ通定ム

競馬規程

第一條　競馬ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル競馬會ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス但シ祭典等ニ際シ専ラ娯樂ノ爲ニスルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　競馬ハ毎年二回定期ニ之ヲ行ヒ一回ノ日數ハ四日以内トス

前項ノ外臨時ニ競馬ヲ開催セムトスルトキハ馬政長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　競馬ノ種類ハ平地競走、速歩競走及障碍競走トス

第四條　馬場ハ長サ一哩幅十二間以下ニ下スコトヲ得ス

第五條　馬場、馬見所其ノ他附屬建造物ハ秩序及風紀ノ維持竝人馬ノ危害豫防ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第六條　競馬ヲ開催セムトスルトキハ二月前ニ開催ノ日時ヲ定メ番組ヲ具シ馬政長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ番組ニハ各競走ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱
二　種類
三　距離
四　賞金又ハ賞品
五　馬匹ノ負擔重量
六　其ノ他必要ノ事項

第七條　競走距離ハ一哩以上トス但シ新馬競走、抽籤競走ニ在リテハ民政長官ノ認可ヲ經テ一哩以下ト爲スコトヲ得

第八條　（削除）

第九條　年齢明ケ三歳以下ノ馬匹及馬匹改良上稗益ナキ馬匹ハ競走ニ使用スルコトヲ得ス

第十條　各競馬會ハ毎年ノ競馬ニ内國産新馬二十頭以上ヲ出場セシムルコトヲ要ス

前項新馬ハ明ケ八歳ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　各競馬會ハ競馬規則ヲ定メ競走馬匹負擔重量、發馬、審判、騎手ノ選擇其ノ他競馬施行ニ關スル詳細ノ事項ヲ規定シ馬政長官ニ屆出ヘシ

第十二條　馬政長官ハ必要ニ應シ官吏ヲ派遣シ競馬ノ施行ヲ監督セシム

第十三條　競馬ヲ終リタルトキハ一月以内ニ左ノ事項ヲ馬政長官ニ屆出ヘシ

一　登錄馬數及入場馬數
二　新馬及各競走ニ於ケル優勝馬ノ名稱種類性毛色年齢體尺特徵産地所有者、抽

競新馬ノ購買價格購買地生産者竝優勝馬ノ競走時間
三 競馬開催ニ關スル經費ノ收支
四 入場參觀者ノ員數
五 競馬場ニ於ケル諸般ノ狀況
第十四條 競馬賞金ハ主トシテ競走距離ニ應シ其ノ額ヲ定ムヘシ又ハ賞品
第十五條 競馬賞金ハ內國產馬ニ厚クスヘシ
第十六條 個人ノ寄附ニ係ル賞金又ハ賞品ニシテ番組ヲ指定シタルモノハ前二條ニ依ラサルコトヲ得
第十七條 馬政長官ハ每期ノ競馬中豫メ番組ヲ指定シ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトヲ得
第十八條 馬政長官ノ指定シタル聯合競走ニハ特殊ノ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ

ヘシ
第十九條 馬政長官ハ馬匹改良上必要ト認ムルトキハ競馬會ニ對シ設備費又ハ開催費ヲ補助ス
設備補助金ハ馬場其ノ他ノ設備ノ取得、維持及改修ニ要スル費用ニ充ツル爲之ヲ下付ス
開催補助金ハ競馬賞金其ノ他開催費ニ充ツル爲開催ノ都度其ノ額ヲ定メ之ヲ下付ス
第二十條 競馬場內ノ秩序及風紀ノ維持ニ關スル事項ハ競馬場所在地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ管理ス
第二十一條 左ニ揭クル場合ニ於テハ監督官廳ハ競馬ヲ停止シ又ハ相當ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ
一 競馬會ニ於テ本令ニ違反シ其ノ他不法不當ノ所爲アルトキ
二 競馬施行ニ關シ危害アリト認ムルトキ
三 競馬場內ノ秩序及風紀ノ維持上必要アルトキ
臨檢官吏ハ急ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ處分ヲ爲シ直ニ所屬長官ニ報告スヘシ
第二十二條 本令ニ定ムルモノノ外馬政長官ハ競馬施行ニ關シ必要ノ事項ヲ競馬會ニ命スルコトヲ得
第二十三條 畜產組合法ニ依ル組合又ハ馬匹ノ改良增殖ヲ目的トスル團體ハ前各條ニ依ラス地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ得テ競馬ヲ行フコトヲ得
前項ノ競馬ニシテ第五條、第九條、第十四條乃至第十六條ノ規定ヲ準用スルモノニ在リテハ地方長官ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ馬政長官ハ開催補助金又ハ賞金、賞品若ハ賞狀ヲ下付又ハ授與スルコトヲ得
前項ニ規定スル競馬ニハ第十一條乃至第十三條、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際既ニ開催ノ屆出ヲ爲シタル競馬ニハ第六條ヲ適用セス

陸密第六號

競馬法制定ニ關スル件

大正十二年一月十五日 陸軍大臣 山梨半造

內閣總理大臣男爵 加藤友三郎殿

競馬法制定ノ必要ヲ認メ候ニ付別紙法律案竝理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

競馬法

第一條 馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條

一ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リ競馬ヲ行フコトヲ得

第二條　競馬ヲ開催セム
年三回以上　許可ヲ受クヘシ
トスルトキハ主務大ニ
競馬開催ノ期間（ヲ開催スルトキ）ハ毎回四日内トス

第三條　競馬ハ入場者ヨリ入場料ヲ徴收
スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者
ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額
五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金
額ヲ以テ發賣スルコトヲ得
勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人
一枚ヲ限ル
勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝
馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス
當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ
關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁
其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前

ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リ競馬ヲ行フコトヲ得

第二條　競馬ヲ開催セム年三回以上トスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　競馬開催ノ期間ハ毎回四日内トス

競馬ハ入場者ヨリ入場料ヲ徵收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル

勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前

項ニ同シ
第六條 第一條ノ法人ハ、勝馬投票的中者ニ對シ命
令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投
票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍内ニ於テ
拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬
投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス
第七條 入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額
及發賣方法竝ニハ、、、、、、、
拂戻金、ノ方法ニ付テハ主務大臣ノ認
可ヲ受
第八條 勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ、、、命令ノ定ムル所ニ依リ其、、
、、、ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一以内ニ相當スル
金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國税滯納處分
ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權
ノ順位ハ國税ニ次クモノトス
第九條 主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良增
殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命
スルコトヲ得
第十條 第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ
第一條ノ法人ハ每事業年度終了後三月内ニ主務
大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ
第十一條 第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務
大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十二條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ
他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

項ニ同シ

第六條 第一條ノ法人ハ、勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍內ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 入場料ノ金額、勝馬投票ノ券面金額及發賣方法竝前條ノ、、、、、、、、、拂戻金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條、、、、、、命令ノ定ムル所ニ依リ其、、、、、、ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第九條 主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十條 第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一條ノ法人ハ毎事業年度終了後三月內ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十三條 主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ

行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分、、、
、、、、、、ニ違反シタルトキ又ハ公益
ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

二　勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

三　役員ノ解任

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二、第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二、第五條ノ規定ニ違反シタル者

三、第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四、第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者

五、第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一、第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二、第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

三、勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四、第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

国立公文書館
National Archives of Japan

競馬ノ法案ノ理由書

馬産ノ現狀ニ鑑ミ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルカ爲競馬ノ法ヲ制定スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

国立公文書館
National Archives of Japan

司法省刑事第八四七號

大正十五年二月五日

…内司法次官

參考

…ニ關スル件

…馬法案ニ付當省ノ

…正六月ニ於テ立案シタル別冊産馬奨…

[illegible]

司法省刑事局 刑事第八四七號

大正十三年二月五日

山内司法次官

馬場法制局長官殿

競馬會法案ニ關スル件

陸軍省ノ提案ニ係ル競馬法案ニ付當省ノ修正意見ニ基キ立案シタル別冊産馬奨勵法案及回付候

法律第　號

産馬奨勵法案

第一條　馬匹ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル競馬ヲ行フコトヲ得

第二條　競馬ヲ行フニハ之ニ必要ナル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ規程ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　年三回以上競馬ヲ開催セムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

競馬開催ノ期間ハ毎回四日内トス

第四條　競馬ヲ開催シタルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徴

收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　入場者ニハ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ニ限ル

勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第六條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

理事監事又ハ競馬ニ關スル開催執務委員調教師騎手馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第七條　勝馬投票的中者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ拂戾金ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　入場料ノ金額、勝馬投票ノ券面金額及發賣方法並拂戾金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　主務大臣ハ馬匹ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　競馬ヲ開催シタルトキハ三月内ニ主務大臣ニ決算ノ報告ヲ爲スヘシ

国立公文書館 National Archives of Japan

第十一條 主務大臣ハ法人又ハ其ノ役員ノ行為カ法令若ハ之ニ基キテ為ス處分若ハ第二條ニ揭クル規程ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ為スコトヲ得

一 設立許可ノ取消

二 競馬ノ停止

三 勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

四 役員ノ解任

第十二條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ定款又ハ第二條ニ揭クル規程其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條第二項ニ揭クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

三 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戾金ヲ交付シタル者

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

二 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戾金ノ交付ヲ受ケタル者

国立公文書館
National Archives of Japan

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

秘

競馬法ニ就テ

大正十二年九月七日　馬政局

一、競馬法制定ノ必要

馬匹ノ改良増殖ノ目的ヲ達成センカ爲ニハ競馬法ヲ制定シ馬券ノ發行ヲ許可スルノ以テ最モ有効確實ノ手段トナス特ニ軍備整理ノ結果年々軍馬購買頭數減少ノ産馬上ニ及ホス關係竝將校乘馬制度改正ノ一般馬事思想上ニ及ホス影響等ニ想ヘ到スルトキハ競馬法ノ制定ハ此際喫緊ノ事タルヲ認ム而カモ制裁ナキ馬券ノ發賣ハ風教上ニ及ホス弊害多カルヘキヲ以テ法制定ニ關シテハ特ニ此點ニ留意スルヲ要ス

二、競馬法制定ノ要項

(一)勝馬投票券ノ券面金額ハ五円以上二十円以

下トシ一競走ニ付一人一枚ヲ限リ發賣スルコトヲ得
(二)投票適中者ニ對スル拂戻金額ハ券面ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス
(三)學生生徒未成年者及當該競馬ノ關係者ハ勝馬投票券ヲ購買スルコトヲ得ス
(四)主務大臣必要アリト認ムルトキハ競馬倶樂部ノ設立ノ取消、競馬ノ停止、勝馬投票券發賣ノ停止制限等ノ處分ヲ為スコトヲ得
(五)勝馬投票ニ關スル規定ニ違反シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ二千円以下ノ罰金ニ處ス

三、本法案起案ノ經過

前記要項ニ基キ馬政局ト司法省ト協議ノ上本年二月二十八日別紙法案ヲ得尚内務及農商務省ヘ協議シ本年三月十八日農商務省ヨリ同意ノ回答ニ接セリ

競馬法制定ノ為改善セラル可キ點

大正十一年十月　馬政局

競馬法制定後ニ在リテハ之ヲ馬券發賣時代ノ競馬ニ比シ左ノ諸點ニ於テ改善セラレ其ノ弊害ノ大部分ヲ矯正スルコトヲ得

一、競馬倶樂部ハ表裏共ニ營利ヲ為スコト能ハス

説明

馬券時代ニ於テハ競馬會ノ表面公益法人タルニ拘ラス其ノ背後ニ營利會社ノ類附隨シ競馬會ト其ノ營利會社トノ間ニ共通ノ會員多ク馬券ニ依ル收入ノ

競馬法制定後ニ在リテハ法令ヲ以テ競馬倶樂部收入金ノ處分法ヲ規定シ其ノ支出ニ關シテハ主務大臣ノ認可ヲ要スルヲ以テ此ノ間不正手段ヲ弄スルノ餘地ナキノミナラ

大部ハ往々借地料ノ如キ名義ヲ以テ営利會社ニ交付セラレ之ヲ通シテ競馬會々員ノ嚢中ニ回歸スルカ如キ手段ヲ以テ陰ニ営利ヲ為セリ此ノ如ク競馬會々員カ営利ヲ目的ト為スコトハ公益ヲ主トス可キ法人ノ目的ニ反スルノミナラス甚シク競馬ノ神聖ヲ害シ人氣ヲ騙動シテ場内ノ活氣ヲ圖ルニ急ナルト當事者ノ技能經驗ノ缺如ニ依リ往々競走並審判ノ公正ヲ保ツ能ハス競爭熱ノ昂騰ニ伴ヒ場内ノ騒擾墮落ヲ招來スルノ因トナリタリ

加之競馬倶樂部當事者ニシテ馬券ヲ購買スル者アルニ至リ最モ競走ノ公正ヲ害シタルモノアリ

ス競馬ノ施行ニ要スル設備ハ現時既ニ倶樂部自身ノ所有ニ属シ其ノ既往ノ債務ハ明治四十三年以降政府ノ補助ヲ得テ年々之ヲ償却シツツアルヲ以テ假令會員ニ於テ馬券時代ノ如ク陰ニ営利ヲ為ス目的ヲ以テ設備ノ供用ニ基ク債務履行ノ形式ニ依リ益金ノ分配ヲ圖ラムトスルカ如キコトアリトスルモ既ニ其ノ本體存在セサルノ理ナルヲ以テ到底為シ能ハサルコトニ属ス又競馬ノ收益カ直ニ其ノ益金ノ分配ト為スカ如キコトハ固ヨリ容認スヘキ限ニ在ラス又倶樂部當事者ハ爾後十余年ノ經驗ト訓練トヲ經タルノミナラス其ノ投票ハ之ヲ許サザルヲ以テ將來倶樂部ハ名實共ニ公益法人トシテ立チ當事者ハ投票ノ圏外ニ在リテ公正ナル態度ヲ維持スルコトヲ得ヘク其ノ背後ニハ唯政府ノ監督存在スルノミナルヲ以テ復タ往年ノ失態ヲ演スルコトナカルヘシ

二、勝馬投票ノ數並ニ之ニ基ク配當ヲ制限シ射倖心ノ挑發風紀ノ紊乱ヲ防止ス

説明

馬券ノ配當額ハ元來過大ナルモノニアラス是レ勝敗ノ豫測ハ概シテ適中シ得ヘキモノナルヲ以テナリ然レトモ當事者ニ於テ不正ナル競走ヲ為ス場合ハ勿論又偶然ノ結果ヲ来タスコト固ヨリ絶無ニ在ラス而テ馬券時代ニ於テハ其ノ發賣ニ何等ノ制限ナカリシヲ以テ極端ナル者ハ一人數百枚ヲ購買シ得タルノミナラス競走ノ勝敗偶々衆人ノ豫想ニ反シタル場合ニ在リテハ其ノ配當亦多額ニ上リ往々人ヲシテ萬一ヲ僥倖スルノ擧ニ出テシメ射倖心挑發ノ虞大ナルモノアリ且ツ吾國ニ於テハ従前馬券ニ關スル訓練並智識ヲ有セサリシト時恰モ日露戰後ニ方リ戰勝ノ餘響未タ醒メサルノ時ナリシ為一般ニ節制ヲ缺キ馬券購

競馬法制定後ニ在リテハ投票適中者ニ對スル配當額ニ嚴格低率ナル制限ヲ附シ其ノ實行ヲ監督シ違反者ニ對シ嚴罰ヲ課スルヲ以テ假令勝敗ノ豫想ニ反スル場合ト雖低率ナル制限額以上ノ利得ヲ為シ得サルヲ以テ萬一ヲ僥倖スル輩ナキニ至ルノミナラス損失亦一定限度ヲ起エルコトナキヲ以テ投票ハ眞ニ馬匹鑑識上ノ趣味ニ基礎トスル一娯樂ニ過キサルノ興味ヲ保タシムルコトヲ得ヘク一面風紀上ノ取締ト相俟チ復タ既往ノ如キ熱狂ヲ喚起セサルヘシ随テ射倖心ノ挑發ハ絶無ト云フ能ハサルモ尚ホ根本ニ對シ極メテ強力ナル制壓ヲ加フルコトヲ得ヘシ

国立公文書館
National Archives of Japan

買者ノ如キハ男女ヲ論セス競走毎ニ非常識ナル熱狂ヲ為シ或ハ自己ノ損得額ヲ高聲ニ叱呼シテ之ヲ衒ヒ或ハ醜業婦ノ如キ者亦縦横ニ奔馳スルカ如キ醜態ヲ呈シ或ハ博徒ノ出入ニ依リテ場内ノ品位ヲ墮シ事アル毎ニ騷擾ヲ激生セシメタル等風紀秩序ノ破壊セラレタル事例少カラス

三、競馬倶楽部ノ數及其ノ開催スル競馬ノ時期ヲ局限シ以テ射倖心ノ抑制ニ資ス

説明

馬券ノ發賣ヲ默許シタルハ僅ニ明治四十年ヨリ四十一年ニ亘ル一年半ノ期間ニ過キサリシニ拘ラス競馬會ノ設立セラルルモノ十六ニ達シ京濱間五競馬會ノ現出ヲ見尚ホ續々増加ノ趨勢ニ在リタリ之ヲ今日ヨリ

競馬法ノ制定ニ依リ勝馬投票ハ之ヲ公許スルト共ニ其ノ監督取締ヲ徹底的ナラシムルヲ得ルヲ以テ政府ハ最モ慎重ナル注意ヲ以テ之ニ臨ミ一般ノ形勢ニ應シテ適正ニ之ヲ指導スルヲ得ヘシ隨テ一般ノ訓練ニ伴ヒ漸進的ニ之カ發展ノ調和シ以テ着實穩健ナル道程ヲ進マシムルコトヲ得ヘシ而テ之カ爲概ネ左ノ要領ニ依ラムトス

国立公文書館 National Archives of Japan

觀レハ頗ル濫許濫設ニ陥リタルモノト謂ハサル可カラス加之競馬ノ開催ニ関シテハ数競馬會互ニ協應シ連續的ニ實行セラレタルヲ以テ此ノ間徃マニシテ馬券ノ購買ヲ職業トスルカ如キ輩ヲ生シ各地ヲ周遊シテ馬券熱ヲ騙動シ甚シク馬券ヲ不真面目ノ物タラシメタル

一、倶樂部ノ濫設ヲ許サヽルハ勿論當分現在数(十一箇)以外之ヲ増設スルノ意ナシ

二、競馬ノ開催ハ地方的事情ニ特ニ季節ニ関スルコト多キヲ以テ全國一齊ノ期日ニ限定スルコトハ至難ナリト雖成ルヘク其ノ一致ヲ期スル目的ヲ以テ要スレハ全國倶樂部ヲ二或ハ三團ニ分チ其ノ區分毎ニ同一時期ニ開催セシメムトス然ルトキハ全國ニ於テ開催時期ヲ異ニスルハ倶樂部数ノ二分ノ一或ハ三分ノ一ニ過キサルヲ以テ假令

點アリタルノミナラス其ノ利弊共ニ高潮普傳セラルルニ至レリ

職業的投票熱中者アリトスルモ到底成立ノ餘地ナク随テ此ノ徒ニ依リテ投票ノ真意義ヲ没了セラルルカ如キ虞ナキヲ得ヘシ

四、官廳ニ競馬場特ニ投票ノ取締ヲ為スコトヲ得

説明

馬券時代ニ於テハ上下未タ其ノ運用ニ関スル訓練ヲ有セサルハ勿論競走ノ實行ニ関シテモ智驗ニ乏シク之カ監督指導上ノ用意

競馬法ノ制定ニ依リ投票ノ實行ニ関シテハ明確ナル取締法ヲ規定スルノミナラス競馬ニ一切ニ関シ厳重ナル監督並ニ制裁ヲ規定シ又往

国立公文書館
National Archives of Japan

往々適切ヲ缺クモノアリタルノミナラス馬券ノ發賣ハ黙許ニ止リ之カ取締ニ關スル一定ノ方針ヲ缺キタル爲現場ノ監督不徹底ニ陥リ特ニ競走、馬券並ニ場内風紀上ノ問題ハ互ニ関聯錯綜シテ顯現スルニ拘ラス各方面ノ責任者自ラ其ノ取締限度ニ關シ疑惑ヲ抱クカ如キ奇ノ觀ヲ呈シ突嗟ノ間時ニ疎虞ヲ生シ失態ヲ自然ニ委スルカ如

事ノ如キ不徹底ナル取締ニ終ルカ如キ虞ナキノミナラス競走ノ實行並ニ指導ニ就テハ既ニ十余年ノ實驗ト訓練ヲ経タルヲ以テ當局並當事者ニ於テ十分ナル用意ヲ以ステ之ニ莅ムヲ得ヘク投票規模ノ極メテ小ナルコトト相俟テ馬券時代ノ失態ヲ反復スルノ顧慮ナキヲ得ヘシ

キ觀ナキニ在ラス

尚ホ以上ノ外競馬法ノ制定ニ依リ競馬倶樂部ニ對スル現行補助金ハ將來斷然之ヲ減廢シ産馬奨勵上他ノ方面ニ轉用スルコトヲ得ルノ利アリ

說明

現時公認競馬倶樂部ニ對スル補助金ハ年額（大正十二年度ノ額）三七五、一二三円ニシテ之ヲ賞金（一七六、〇〇〇円）開催補助（三六、八一八円）及設備補助（一六〇、三〇五円）ニ區分ス

賞金ハ各競走ニ對スル賞金ノ全部ニシテ現在ノ競馬ハ此ノ賞金ヲ目標トシテ行ハル

開催補助ハ競馬開催ノ爲ニ直接所要ナル

国立公文書館
National Archives of Japan

建物ノ修繕並ニ倶樂部カ義務トシテ負担スル新馬購入費ニ對スル補助ニ充ツルモノトス
設備補助ハ馬券禁止ノ結果設ケラレタルモノニシテ當時各競馬會カ負担シタル多大ノ債務償却ヲ補助シ競馬ノ施行ニ必要ナル設備ハ會自ラ之ヲ所有シ一面各會ノ廢合ト相俟テ永ク獨立自営ヲ得セシメ背後ニ附隨シテ百弊ノ主因タリシ営利會社ヲ一掃スルニ至ラシメタルモノニシテ第二十六議會ノ協贊ヲ経明治四十三年度ヨリ大正十八年度ニ亘ル二十ヶ年ヲ以テ總計三〇二九、三九六円ヲ交付スルコトニ定メ今ヤ十三ヶ年度分一九八二、四二五円ヲ交付シ各競馬倶樂部ハ之ニ因リテ年々其

[illegible]十二年[illegible]円ヲ残セリ[illegible]利益ハ現[illegible]額ハ今[illegible]見込ニ[illegible]付スル外之[illegible]開催所要[illegible]競馬ノ内容[illegible]達成ニ努力ス[illegible]現行補助金[illegible]共ニ他ノ有要ナル産馬[illegible]馬政ニ振興上將來大ニ國庫ノ負担ニ待ツヘキモノアルニ方

リ此ノ轉用ニ依リテ之ヲ輕減シ得ヘハ其ノ貢献鮮少ナラスト謂ハサルヘカラス而シテ競馬設備ニ關スル経費ハ亦倶樂部ニ於テ自給スルヲ主旨トシ其ノ現行補助ハ收益ノ程度ニ依リテハ之ヲ減廢シ之ニ由テ生スヘキ餘裕ハ他ノ奬勵ニ轉用セシムヘキモノトス

競馬法ヲ制定セサル場合馬事振興ノ為メ要スル經費

競馬法ヲ制定セサル場合馬事振興ノ為要スル經費

大正十一年十一月　馬政局

要旨

補助金ノ増加ニ依リ競馬ノ現状ヲ救済シ其ノ振興ヲ圖リ之ヲ以テ競馬法ノ制定ニ代ヘムトスル考案ハ往々唱道セラルル所ナリト雖其ノ目的ノ全部ヲ達成スルコトハ至難ナリ蓋シ競馬ノ目的タルヤ直接馬ノ改良ニ切要ナル蕃殖馬ノ鍛錬竝銓衡ヲ圖ルニ在ルノミナラス一面ニ於テ多数ノ民衆ヲ驅リテ之ヲ観覧愛好セシムルコトニ依リ國民ノ馬事思想及乗馬趣味ヲ高潮セシメ由テ以テ間接ニ馬ノ増殖改良上ニ深甚ナル基礎ヲ與ヘムトスルニ在ルヲ以テ假令競馬其ノ物ノミ理想的ニ實行セラルルモ以テ観覧者ヲ吸収スル能ハスンハ目的ノ一半ハ遂ニ達成スルノ

途ナキヲ以テナリ況ヤ観覧人ノ衆多ナルニ随テ競走場裡ノ活気益充溢シ金銭ヲ以テ贏チ得ヘカラサル刺戟ヲ與ヘ出場馬数自ラ増大シ資質亦高ヒン競馬ノ直接目的之ニ依リテ愈々確保セラルヘキニ於テオヤ

然レトモ競馬界ノ現状ハ啻ニ観覧者ノ稀少ナルノミナラス競馬自体亦極メテ不振ニシテ大体ヨリ謂フトキハ其ノ價値低小殆ト謂フニ足ラサルヲ以テ此ノ際先ツ之ノ窮乏ヲ緩和シ假令競馬法施行ノ効果ノ如クナラサルモ尚相當ノ効用ヲ發揮セシメ其ノ足ラサル點ニ對シテハ別ニ各種ノ施設ヲ加ヘ彼此相俟テ畜産一般ノ作興ニ資スルコトハ次善ノ策トシテ固ヨリ有益事ニ屬シ其ノ馬匹改良上ニ及ホス裨益決シテ鮮少ナラサルヘシ而テ之ニ要スル經費（現行額ニ増加スヘキ分）概ネ左ノ如ク其ノ詳細ハ後章説明並附表第一及第二ノ如シ

所要増加經費　年額　四、四三六、八一六円

内譯

一、競馬倶楽部ニ對スル増加補助　一、八五八、九九九

内譯

賞金	六〇〇、〇〇〇
抽籤新馬補助	九六、〇〇〇
建物保存費補助	一九〇、五五六
借地代補助	四四、五六六
右ノ計カリ減スヘキ現行補助	（四七五、一二三）

二、畜産組合其ノ他ノ競馬ニ對スル増加補助　五七六、八五〇

三、競馬以外ノ施設ニ對スル奬励ノ増加　一、九九七、〇一七

前項經費ト競馬法ノ關係

競馬法ヲ制定シ勝馬投票券ノ發賣ヲ公許スル場合ニ於テハ競馬倶樂部ハ各其ノ收入ヲ以テ自給シ且ツ其ノ政府ニ納付スヘキ金額及現ニ國庫ノ支出シツツアル競馬倶樂部ニ對スル補助金ハ之ヲ其ノ他ノ増加補助及奬励ノ為ニ充當シ得ヘキヲ以テ此ノ場合ニ於テハ前項所要増加經費トシテ支出スヘキ國庫負擔ノ大部ヲ省略スルコトヲ得ヘシ其ノ關係ハ後章ニ説明スル處ノ如シ

説明

第一　競馬倶樂部補助金ニ就テ

前記計算ニ於テ所要經費積算ノ基礎竝其ノ理由ハ左ノ如シ

一、競馬倶樂部ノ數　現在ノ通リ十一個ト假定ス但シ現在ノ倶樂部數ハ馬政ノ大計ヨリ観テ適切ナラサル嫌ナキニアラス特ニ將來馬産地方面ニ於テ若干ノ増加ヲ必要トスルニ至ルヘシ

二、競馬開催日數　各倶樂部共春秋二回開催シ一回ハ四日間トス從テ一ケ年ノ開催延日數ハ八十八日ナリ

三、競馬回數　現在ニ於テハ一倶樂部一日ノ競馬回數ハ六回乃至十回ニシテ各倶樂部ヲ通シ一ケ年延五百五十余回ナリ而シテ之ヲ馬券時代ニ比較スルニ明治四十一年ニ於テハ其ノ後半期ニ於テ既ニ馬券禁止ノ為一部ノ減數ヲ見タル

篤ナルニ拘ラス尚一ケ年ノ延一千四十八回ヲ算シ一倶楽部一日十二三回ノ競走ヲ行ヒ且ツ一回ノ出場馬数二三十頭ニ達スルモノアリタルモ馬場ノ設備ニヨリ許サザル為一回ヲ二ニ競走ニ分チ實行スルニ至リタル事例アリ故ニ将来補助金増加ノ暁ニ於テハ固ヨリ馬券時代ヲ髣髴セシムルコト難シトスルモ尚各倶楽部少クモ一日十回トシ一、二大倶楽部ニ於テハ一日十二回ノ實施ヲ見ルコトヲ豫期スヘク概算一ケ年延九百五十乃至一千回ニ達スヘキ見込ナリ

四、出場馬数　現在各倶楽部ヲ通シ一ケ年ノ出場延馬数ハ僅ニ九百頭内外ヲ算スルニ過キサルモ馬券時代ニ於テハ明治四十一年ニ於テ

二千六百七十九頭ニ達セリ思フニ競馬ノ直接的効果ハ出場馬数ノ多キニ随テ益大ナルハ自明ノ理ニシテ将来亦馬券時代ノ如キ隆盛ヲ招来スルコト頗ル緊要ナリ

五、一競走ニ對スル平均賞金額　現在ニ於テ競馬倶楽部ノ賞金ハ全部政府ノ補助金ニ依ルモノニシテ年額十七萬八千圓（大正十年度ニ限リ十萬円ヲ増加シタルモ異例ニ属スルヲ以テ省ク）ニシテ一競走ニ對スル平均額三百四十円、出場馬数ニ對スル一頭當百九十七円余ニ當ル

往年馬券時代ニ於ル一競走ノ平均賞金額ハ明治四十一年春季ニ於テ六百八十二円ニシテ出場馬数一頭當三百四十円ニ相當セリ而テ是等ノ金額ハ未タ決シテ多シトスル能ハスト雖馬券ニ基ツ

欧米各国ノ賞金額ハ頗ル高ク試ニ一九一三年ニ於ケル仏国ノ平地競走ニ就テ観ルニ一競走平均六百〇円ニシテ一回ノ賞金額十二万円ニ達スルモノアリ其ノ詳細ハ競馬ノ参考資料ニ記載シアリ

般ノ活氣ヲ以テ善ク賞金ノ足ラサルヲ補ヒ得タルモノトス蓋シ馬劵ハ衆多ノ觀覽者ヲ吸收蝟集セシムルノミナラス競走ノ勝敗馬ノ研究鑑識ニ關スル觀覽者ノ嗜慾ヲ刺戟シ群集心理ニ依リテ益々之ヲ劇成シ場内外ノ活氣爲ニ横溢シ所謂馬ヲ談シ馬ヲ解スル者ニ在ラサレハ顧ミラレサルノ雰圍氣ヲ釀生セシムルモノニシテ競走場裡ノ勝者タル馬並馬主等ノ聲譽ハ面リ喧傳流布セラレ彼等ハ滿面ノ得意ヲ禁シ得リ發奮蹶起不知不識打算的損益ヲ超越一意優良馬ノ發見羅致ニ熱中シ其ノ未タ馬主タラサル者モ亦或ハ馬劵ノ的中ヲ期セムカ爲ニ自信タル馬ヲ求メ或ハ能力未知ノ新馬ヲ驅リテ競走ニ參加セシメ出場馬數爲ニ激增シ此ノ間又必スシモ賞金ノ多寡ヲ論セサルニ至ル是レ偏ニ人情ノ機微ニ屬スル自然現象ニシテ馬事ノ見地ヨリ見テ甚タ珍重スヘキ所タリ

然レトモ此ノ事タル畢竟無制限馬劵ノ如キ放膽的方法ニ依リ始メテ獲得スヘキ効果ニシテ單ニ賞金ニ依ル競馬ノ到底豫期スル能ハサル所ナリ而テ賞金ヲ主トスル競馬ニ於テ出場馬數ヲ多カラシメムトセハ一ニ太賞金ヲ標示シ以テ馬主ノ發奮ヲ促スノ外ナキヲ以テ其ノ賞金額亦到底馬劵時代ノ範圍ニ止ムルコト能ハサルヤ勿論ナリトス

如上ノ事實ヲ參酌シ補助金ニ依ル競馬ニ於テ

如何ナル程度ニ賞金額ヲ高上スヘキヤニ關シテハ深ク考究ヲ要スルモノアリト雖先ツ直接ノ關係アル馬主ノ負擔ヲ考査スルニ概ネ左ノ如シ

飼養、管理及調教費　年額一、二〇〇円乃至一、八〇〇円
平均一、五〇〇円内外
但シ輸送、疾病等ニ要スル費用ヲ含マス

購買價額　自由購買馬ニ在リテハ際限ナク一頭六千円ニ達スルモノアリ抽籤新馬ニ在リテハ現在ハ各倶楽部ノ素質ニ依リ三百円乃至一千円ノ間ニ在リテ其ノ平均六乃至七百円ナルモ馬格貧弱ナルモノ鮮カラサルヲ以テ少クモ八百円以上ノモノナラサルヘカラス特ニ競馬ノ振興ニ伴ヒ此ノ種ノ馬匹ノ價格ハ騰貴スヘキヲ以テ之ヲ一千円トシ之ニ對シ後述スル如ク三割ヲ補助セラルトキハ一頭當馬主ノ負担ハ七百円ナリ

即テ馬主ノ負擔ハ新馬ニ於テハ合計二千二百円ニ上ルヘク購買價額ハ之ヲ不問ニ附セラルヘシト雖尚一ヶ年一千五百円内外ノ維持費ヲ要スルヲ以テ現在ノ平均賞金額ハ第一着馬ニ對シテモ僅ニ三ヶ月分ノ飼育費ヲ支辨スルニ足ラス其ノ優勝セサル馬ニ在リテハ勿論何等ノ償ハルル所ナシ茲ヲ以テ競馬ニ對シ一定ノ知識ト且ツ十分ナル趣味ヲ有スル人士ニ於テ購入スヘキ馬匹ノ甚大ナル躊躇逡巡ニ陥ルハ自然ニシテ年々出場馬ノ數漸減ヲ來セル一半ノ理由實ニ茲ニ存セリ

若シ賞金額ノ増加ニ一競走ニ對スル平均額ヲ二千円トスル時ハ其ノ額ハ前表ノ如ク一支賞第一着馬ニ在リテハ然ル馬主ノ負擔ノ大部ヲ償ヒ得ヘキヲ以テ現時ニ於ケル馬主ニ刺戟ヲ與フルニ一大効果ヲ期スルヲ得ヘシ

国立公文書館 National Archives of Japan

此ノ場合ニ於テ全國各倶樂部賞金総額ハ約二百萬円ナリトス

等級／賞者	馬主	生産者	計
一着賞	一五〇〇	二〇〇	一七〇〇
二着賞	三〇〇		三〇〇
計	一八〇〇	二〇〇	二〇〇〇

備考 本表ハ平均額ニシテ競走ノ種類ニ應シ増減ヲ加ヘ又生産者ニ對スル賞ヲ省クコトアルモノトス

六、抽籤新馬補助並ニ土地建物ニ関スル補助

賞金ノ増加ニ依リ競走ノ振興ヲ圖リ得ヘキモ為ニ倶樂部ノ收入ヲ増加スルコトナク以テ開催並設備ニ要スル費用ニ對シ[illegible]政府ノ補助ヲ廢スルコトヲ得ス從テ抽籤新馬購入並土地建物ノ設備維持ニ對シ補助金ヲ交付セサルヘカラス

抽籤新馬補助　現在ニ於テハ一頭當八十円ヲ補助スルモ是レ已ムヲ得サルニ由ルモノニシテ将来購買價額ノ三割ヲ以テ標準トスルヲ至當ト認ム而テ購買價額平均一千円トシ一頭三百円ヲ要シ全國各倶樂部一年ノ新馬購入數三百三十頭（一倶樂部三十頭）ト看做シ九万九千円ヲ積算

七、建物保存賞補助　各倶樂部ノ建築費ヲ標準トシ年々其ノ一割ニ相當スル額ヲ交付スルモノトスルトキハ左ノ如シ

甲 倶樂部三箇（東京、日本及阪神）ノ建築費各三十三万六千二百七十六円 計一百万八千八百二十八円

乙 倶樂部八箇（前記ノ外全部）ノ建築費各十一万

二千九十二円
計 八十九万二千七百三十六円
合計 百九十万五千五百六十四円
其ノ一割 十九万五百五十六円
借地料補助 借地料ハ大正九年ニ於テ二万九千六百十一円ヲ要シ尚ホ其ノ地價ニ伴ヒ續々騰貴ノ趨勢ニ在ルヲ以テ其ノ五割ヲ加算シ四万四千五百六十六円ヲ見込ミ積算ス

第二、畜産組合其ノ他ノ競馬ニ對スル補助ニ就テ

公認競馬以外各地方ニ於テ開催スル競馬ハ既ニ其ノ數少カラス而シテ其ノ中ニハ固ヨリ小規模ニシテ單ニ祭典ノ余興ニ過キサルモノ鮮カラスト雖亦相當馬匹改良上有意義ナルモノ尠カラスシテ是等ハ其ノ實行容易ニシテ且ツ最モ普遍的ナルノ利アルヲ以テ將來公認競馬ト相應シテ馬匹改良上並ニ國民馬事思想ノ普及ニ資セシムルコトハ最モ有利トスル所ナリ而テ之ニ要スヘキ奨勵費概ネ附表第一ノ如シ

第三、競馬以外ノ奨勵ノ増加ニ就テ

單ナル競馬ノ振興ノミヲ以テシテハ未タ其ノ眞目的ヲ達成シ得サルコト前述ノ如シ蓋シ國民ノ馬事思想並乗馬趣味ヲ高上普及セシメ能ハサルコト是ナリ故ニ專ラ補助金ニ依ル競馬ノ振興ヲ圖ル場合ニ於テハ同時ニ其ノ缺陥ヲ補足スル爲馬事宣傳、産馬特ニ輕種ニ對スル保護並馬數増加ニ關スル一層徹底的保護施設ヲ必要トス而テ其ノ要項ニ關シテハ別ニ「馬政ノ現状」ニ記述セル所ノ

如ク之ニ要スル經費中現時指摘シ得ルモノ概ネ附表第一ノ如シ

第四、競馬法制定ト所要總經費トノ關係

競馬法制定セラルル場合ニ於テ既記所要増加經費ノ大部ヲ省略シ得ルコト前述ノ如ク其ノ關係左ノ如シ

一、競馬倶樂部ニ對スル増加補助　一、八五八、九九九円

右ニ對シテハ大体ニ於テ勝馬投票發賣ニ基ク倶樂部收入中ヨリ支辨シ若干ノ不足アル場合ニハ觀覽料收入等ヨリ之ヲ補フコトヲ得ルヲ以テ特ニ補助ヲ加フルノ要ナキニ至ルヘシ而テ倶樂部收入ノ内譯左ノ如シ

勝馬投票發賣ニ基ク倶樂部收入　二、三五二、一七六円（附表第三參照）

内收入金ヨリ引去ルヘキ額

政府納付金	二二五、二一八円
投票施行ニ要スル經費（三割）	六七五、六五三円
差引	一、三五一、三〇五円
觀覽料ニ依ル收入　約	八〇〇、〇〇〇円
計	二、一五一、三〇五円

二、畜産組合其他ノ競馬ニ對スル増加補助　五七六、八五〇円

競馬法ノ制定ニ伴ヒ其ノ好影響各馬産地ニ及フヘキハ勿論公認倶樂部ノ配置ニ異動ヲ生シ各主要馬産地ニ於テハ畜産組合其ノ他ノ競馬ハ自ラ公認競馬ニ代ハルヘキモノアルヲ以テ本項ノ經費ハ競馬法ノ制定ニ依リ大ニ之ヲ輕減スルコトヲ得ヘシ

三、競馬以外ノ施設ニ對スル奨励ノ増加

本項中附表第二ニ掲クル第一第二項即チ産馬

奨励並馬事思想ノ普及並馬匹増殖ニ資スヘキ
事項、計一四〇七〇一七円ニ對シテハ左ノ二項ノ金額
ノ範圍ニ於テ充當スルコトヲ得ヘシ
奨励競馬ノ為倶樂部ヘ補助（諸掛費控除三）　四三七、九二三円
勝馬投票券發賣ニ依ル政府納付金　二二五、二一八円
計　六六三、一四一円
然ルニ右ハ尚多額ノ不足ヲ生シ之ヲ國庫ノ支出ニ
仰カサルヘカラサル計算トナルモ競馬振興ノ程度
如何ニ依リテハ其ノ影響豫期以上ニ地方ニ及ヒ
一層奨励ノ程度ヲ軽減シ得ル見込ナキニアラサ
ルヲ以テ國庫ノ負担モ亦随テ減少ノ餘地ナシ
トセス
而テ前諸項ノ豫測ニ依ルトキハ競馬法ノ制定ニ依
リ國庫ノ負担約三百萬円ニ近キ額ヲ軽減セシムル
コトヲ得ヘシ

第五、競馬法制定ヲ以テ他ノ奨励保護ヲ廢スヘカラサル理由

公認競馬ノ大勢ヲ復活セシムルコトヲ得ハ他ノ奨励
保護施設ノ如キハ又顧ルノ要ナシト為スノ説往
々世ニ行ハルルモ此ノ觀察ハ畢竟馬事ノ現況ヲ
正視スルノ用意ヲ缺キ且ツ制限大ナル勝馬投票
ノ効果ヲ過大萬能視スルモノニシテ至當ト謂フヲ得
ス蓋シ競馬ノ直接間接ノ効用ハ固ヨリ博大ニシテ
馬事振興ノ施設トシテ極メテ重要ナル地位ヲ占
ムルコトハ又疑フノ餘地ナシト雖直ニ之ヲ以テ唯一無
二ノ萬能的施設ト為スコトハ寧ロ危險ニシテ此ス

ヤ他ニ相應スル策ヲ講シ彼此相俟テ馬事界全般ノ好機運ヲ釀成シ歳月ノ經過ニ依リテ之ヲ鞏固ニシ復タ回復スヘカラサル基礎ヲ成形セシムルニ在ラサレハ決シテ一般ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハサルハ先進諸邦ノ事例ニ鑑ミ動カスヘカラサル事實ナレハナリ加之数多ノ制限下ニ採用セムトスル勝馬投票ノ如キハ之ヲ以テ直ニ歐米ノ馬券ニ比スルヲ得サルハ勿論ニシテ大局ヨリ観ルトキハ競馬法ノ制定ハ公認競馬ヲシテ一半ノ復活ヲ得セシメ之ニ應スル相當ノ効果ヲ收メ以テ馬事ノ漸衰防止ニ資シ或ハ進シテ往時ノ状態ニ歸ラシメムコトヲ庶幾スルニ止リ其ノ効果亦往時ノ範疇ヲ出ル能ハサルヤ勿論ナリトス然ルニ軍事並産業上ニ於テ馬事ニ對スル要求ハ日々益々増大ヲ印起シ之ラノ萎靡不振年々馬数ノ減少シツツアル現状ニ對比スルニ深憂トスヘキ懸隔ヲ存スルノミナラス両者自然ノ趨向ハ正ニ相反シ日ヲ經ルニ随テ其ノ距離ヲ大ナラシメツツアルヲ以テ今ニシテ一大作興ヲ加ヘ其ノ勢調ヲ反轉セシメ隆々タル馬事ノ盛運ヲ策スルコトハ極メテ急務ニ属ス故ニ馬ノ増殖改良ニ寄與スル所アルヘキ施設ハ零碎ノ微ト雖採リテ之ヲ網羅シ餘ス所ナカラシムルカ如クナサルヘカラス特ニ[illegible]ニ對シ[illegible]スル施設ノ如キハ認メテ之ヲ要ト爲ス所ニシテ一モ忽々看過シ得ヘキモノニアラサルナリ

第六　参考

参考　為競馬法制定セラルル場合ニ於ケル勝馬

投票發賣豫想成績ヲ附表第三ニ揭記ス

附表第一　畜産組合其ノ他ノ競馬ニ對スル增加補助

一、補助總額　五九〇、四〇〇圓

内譯

區分	競馬會数	開催日数 一競馬會ノ	開催日数 計	競走回数 一競馬會ノ	競走回数 合計	賞金 一競走	賞金 合計	摘要
甲	一〇	八	八〇	六	四八〇	五〇〇	二四〇、〇〇〇	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、鹿児島、高知、福島、鈴川等ノ内トス
乙	一三	八	一〇四	六	六二四	四〇〇	二四九、六〇〇	前項府縣ノ外島根、石川、長野、兵庫、福岡、長崎等ノ内トス
丙	七	八	五六	六	三三六	三〇〇	一〇〇、八〇〇	前二項ノ他ノ府縣ノ内トス
計	三〇	.	二四〇		一四四〇	.	五九〇、四〇〇	

二、現行補助年額　一二、五五〇円

但シ北海道 青森 岩手 秋田 仙台 鹿児島 高知 福島及鈴川競馬ニ交付シアルモノトス

三、差引增加額　五七六、八五〇円

附表第二

競馬以外ノ施設ニ對スル奬勵費ノ増加額

所要増加經費　年額　一、九九七、〇一七円

内譯

一、産馬奬勵ニ関スルモノ

	所要額	現行額	差引増加額
共進會賞金	一九三、二二〇円	(三三、四五〇円)	一五九、七七〇円
共進會開催補助	七二、〇〇〇	(八〇〇)	七一、二〇〇
優等馬奬勵金	五九〇、〇〇〇	(七六、〇二五)	五一三、九七五
地方種畜場及育成所補助	五四、〇〇〇		五四、〇〇〇
内國購買種馬價額増加	七〇、〇〇〇		七〇、〇〇〇
奬勵雜費	一五、〇〇〇	(一、三〇五)	一三、六九五

二、馬事思想ノ普及並馬匹増殖ニ資スルモノ

	所要額	現行額	差引増加額
馬事宣傳	一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇
諸調査馬衛生及飼料試驗	四三、三七七		四三、三七七
乘馬團体並馬術練習所補助	一二二、〇〇〇		一二二、〇〇〇
畜産組合補助	一五〇、〇〇〇		一五〇、〇〇〇
馬車ノ奬勵	一五〇、〇〇〇		一五〇、〇〇〇
馬糧並廐肥利用奬勵	九〇、〇〇〇		九〇、〇〇〇
牧馬講習所經費	四〇、〇〇〇		四〇、〇〇〇

三、海外領土ニ於ケル馬事奬勵　一〇〇、〇〇〇　　一〇〇、〇〇〇

四、軍馬購買價額ノ増加額　四九〇、〇〇〇　　四九〇、〇〇〇

幼駒一頭　三百五十円トシ現行二百八十円トノ差　七十円　三千頭
壯馬一頭　四百五十円トシ現行三百十円トノ差　百十円　二千頭

勝馬投票券發賣額試算豫想

賣上總金額	二二、五二一、七六〇円
内 倶樂部處分金額 九分	二、〇二六、九五八
政府ヘ納付スル金額 一分	二二五、二一八

倶樂部＼區分	東京	阪神	日本	中山	小倉	福島	函館	札幌	新潟	京都	宮崎	計
投票券發賣枚數 一年ニ付（二回）	八〇〇〇〇〇 (10,000)	七二〇〇〇〇 (9,000)	五六〇〇〇〇 (7,000)	四八〇〇〇〇 (6,000)	四〇〇〇〇〇 (5,000)	四〇〇〇〇〇 (5,000)	二四〇〇〇〇 (3,000)	二四〇〇〇〇 (3,000)	一六〇〇〇〇 (2,000)	一六〇〇〇〇 (2,000)	九六〇〇〇 (1,200)	四〇一六〇〇〇 (50,200)
一開催ニ付（一日）	四〇〇〇〇〇 (5,000)	三五〇〇〇〇 (4,500)	二八〇〇〇〇 (3,500)	二四〇〇〇〇 (3,000)	二〇〇〇〇〇 (2,500)	二〇〇〇〇〇 (2,500)	一二〇〇〇〇 (1,500)	一二〇〇〇〇 (1,500)	八〇〇〇〇 (1,000)	八〇〇〇〇 (1,000)	四八〇〇〇 (600)	二〇〇八〇〇〇 (25,100)
競走數 一年計（一日）	九六 (12)	九六 (12)	九六 (12)	八八 (11)	八八 (11)	八八 (11)	八〇 (10)	八〇 (10)	八〇 (10)	八〇 (10)	八〇 (10)	
投票券平均單價	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九一七	九一七	九一七	九一七	九一七	六六六	六六六	六六六	
賣上金額	四、八〇〇、〇〇〇	四、三二〇、〇〇〇	三、三六〇、〇〇〇	二、四二〇、〇〇〇	二、〇一七、四〇〇	二、〇一七、四〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	五三二、八〇〇	五三二、八〇〇	三一九、六八〇	二二、五二一、七六〇

参考觀察表

投票券發賣比例

倶樂部＼券別	貳拾圓券	拾圓券	五圓券	平均
東京 阪神 日本	一	三	二	一〇〇〇
中山 福島 小倉 函館 札幌	一	二	三	九一七
新潟 京都 宮崎	〇	二	四	六六六

觀覽料平均

料金	五圓	参圓	壹圓	〇	平均
比例	一	四	三	二	一圓〇〇
觀覽料收入總額	八〇三、二〇〇円				

外國馬券賣上高ノ一例

佛國 一九一三年 一五八、三八九、一八〇円
新西蘭 一九一五年 三八、三二八、八七〇円
濠洲「ランドウィク」競馬場（一ヶ倶樂部八日間） 二、二三一、一一〇円

外ニブックメーカーヲ伴フモノトス

馬券及勝馬投票ノ的中率 （一〇一六一三）

馬券當時ノ書類保存スルモノ少ナク實況ノ調査ニ苦シムモ明治四十一年ノ秋季ノ鳴尾速歩競馬會四日開催ニ関スルモノハ比較的精確ニシテ此開催ハ馬券最高潮期ノ最モ爛熟セル時代ノ現状ヲ知ルニ足ルヘキモノトス

鳴尾速歩競馬會ハ速歩競馬會ト稱スルモ速歩ハ一日一回ニ過キス且此競走ニ對シテハ馬券ヲ發行セサリシヲ以テ普通ノ競馬會トシテ可ナリ馬券一枚十円トス

勝馬投票ニ関スルモノハ最近大正十年ノ開催ヲ以テ最モ練熟セルモノトシ東京競馬倶楽部ノ事實ヲ比較的

公正精確ナルモノトス一票ノ價ハ入場料トノ比例ニ依リ二円ト見做ス

一、的中率ト総額トノ関係（第一表）

的中率ハ發行総額又ハ投票総數ニ對シ

平均　百分ノ二十七、二

最高　百分ノ四十三、三

最低　百分ノ二十六、二

此関係ハ馬券ト勝馬投票トノ間ニ大差ナク又従往ト今日トノ間ニ於テ大差ナシ

結局的中率ハ百分ノ三十ト見テ大過ナカルヘシ

二、的中率ト配當額ノ関係（第二表）

發行総額又ハ投票総數ト的中率ノ関係左ノ如シ

配當ハ發行又ハ投票総數ノ	馬券	勝馬投票
三十倍以上	一万分ノ十二	
二十倍以上	千分ノ四	
十倍以上	千分ノ八	千分ノ三
五倍以上	千分ノ四十五	千分ノ八
五倍及未満	百分ノ二十三	百分ノ二十五
二倍及未満	百分ノ十一	百分ノ十九

的中総數ト的中率ノ関係左ノ如シ

配當ハ的中総数ノ	馬券	勝馬投票
三十倍以上	千分ノ四	
二十倍以上	百分ノ一	
十倍以上	百分ノ三	千分ノ一
五倍以上	百分ノ十六、五	
五倍及未満	百分ノ八十三、五	百分ノ三
二倍及未満	百分ノ三十九	百分ノ九十六

第一表

馬券又ハ勝馬投票的中率

	發行総額	的中數	的中百分數
馬券（鳴尾競馬會 明治四十一年秋季）	二二七、二九八	六一、七三八	二七、二
勝馬投票（東京競馬倶楽部 大正十年春秋二季）	二九、〇五五	七、七二七	二六、五
同（日本競馬倶楽部 仝右）	三八、一九一	一〇、七一五	二七、九
計	二九四、六四四	八〇、一八〇	二七、二

参照

東京競馬倶楽部

時期		投票総數	的中數	的中百分率
大正十年	春季	一三、八一七	四、二七二	三〇、九
	秋季	一五、二三八	三、四五五	二二、七
	計	二九、〇五五	七、七二七	二六、五

第二表

馬券又ハ臨時投票的中率ノ細別

配當額（一票ノ倍数）	總投票数ニ對スル的中百分数 馬券當時（[illegible]）	總投票数ニ對スル的中百分数 臨時投票（[illegible]）	的中總数ニ對スル的中百分数 馬券當時（[illegible]）	的中總数ニ對スル的中百分数 勝馬投票ノ最近（[illegible]）
一倍		〇九九		一八、七六
二倍及未満	一〇、五三	一〇〇	三八、七八	五二、八二
三倍及未満	六、四一	五、九六	二三、五八	二二、四二
四倍及未満	三、五四	〇、四七	一三、〇〇	一七九
五倍及未満	二、二〇	〇、七八	八、一〇	二、九五
六倍及未満	二、二四		八、二三	
七倍及未満	〇、二七		一〇〇	
八倍及未満	〇、四六		一、八二	
九倍及未満	〇、四三		一、六二	

日本競馬倶楽部

大正十年			
春季	一六、三〇二	五、四七三	三三、五
秋季	二一、九八九	五、二四二	二三、八
計	三八、二九一	一〇、七一五	二七、九

三

明治四十一年秋季鳴尾速歩競馬會馬券的中率調

配當額	的中數	馬券發行總數ニ對スル的中百分率	的中數ニ對スル的中百分率
十円代	二三九〇五	一〇五二	三八七八
二十円代	一四五六〇	六[illegible]一	二三五八
三十円代	八〇四八	三[illegible]	一三〇〇
四十円代	五〇〇四	二[illegible]	八一〇
五十円代	五〇[illegible]	二[illegible]	八二三
六十円代	六二一	[illegible]	一〇〇〇
七十円代	一〇五七	[illegible]六	一七二
八十円代	九九九	〇四三	一六二
九十円代	五四一	〇二四	〇八八
百円代	八四四	〇三七	一三七

明治四十四年秋季鳴尾競馬会馬券的中数調

配當類	第一日	第二日	第三日	第四日	計
十円代	五、六八[illegible]	[illegible]、九二[illegible]	五、〇五四	六、二八〇	二三、九四五
二十円代	三、四五七	二、一八七	一、四八〇	七、四三六	一四、五六〇
三十円代	一、八一五	一、一六九	一、五一一	三、五五三	八、〇四八
四十円代	一、六三二	二、二一三		一、一五九	五、〇〇四
五十円代	四八七	二、一六八	八四六	一、五八三	五、〇八四
六十円代			六二一		六二一
七十円代		五四〇		五一七	一、〇五七
八十円代	五二〇		四七九		九九九
九十円代				五四一	五四一
百円代		四四八		三九六	八四四

百四十円代	一七八	〇、〇〇八	〇、〇二九
二百二十円代	一五八	〇、〇〇七	〇、〇二六
二百六十円代	一五四	〇、〇〇七	〇、〇二六
二百七十円代	一六三	〇、〇〇六	〇、〇二六
二百八十円代	一三一	〇、〇〇六	〇、〇二一
三百二十円代	一七一	〇、〇〇八	〇、〇二九
四百二十円代	八〇	〇、〇〇四	〇、〇一四
計	六一、七三八	二七、一六	一〇〇、〇〇

備考　馬券發賣總數 二二七、二九八枚トス

一百四十円代	二百二十円代	二百五十円代	二百七十円代	二百八十円代	三百二十円代	四百二十円代	計
一七八							一三、七七二
					一七一		一五、八二四
	一五八		一六三	一三一		八〇	一〇、五二三
		一五四					二一、六一九
一七八	一五八	一五四	一六三	一三一	一七一	八〇	六一、七三八

大正十年春秋二季東京競馬倶樂部勝馬投票的中票數

的中事實		円	[illegible]	[illegible]	八円	[illegible]	二十円	
的中數	春季	一、四四九	[illegible]	[illegible]七	一三八	六五	三七	
	秋季	—	二、〇七六	一、五六[illegible]	—	一六三	六〇	
	計	一、四四九	四、〇八二	一、七三三	一三八	二二八	九七	
總投票數		15,238 13,817 29,055						
的中數ノ總投票數ニ對スル百分率		四九九	一四〇	五九六	〇四七	〇七八+	〇三三+	二六、五三
的中總數		3,455 4,272 7,727						
的中[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	六九五	一二六	

大正十年春季東京競馬倶楽部勝馬投票的中率調

的中事實 金額	的中票数	總投票数	的中数ノ總投票数ニ對スル百分率	的中總数	的中数ノ的中総数ニ對スル百分率
二円	一、四四九	一三、八一七	一〇、四八	四、二七二	[illegible]
[illegible]	二、〇〇六		一四、五一		[illegible]
[illegible]	五七七		四、一七		[illegible]
[illegible]	一三八		一、〇〇		[illegible]
八円	六五		〇、四七		[illegible]
[illegible]	三七		〇、二七		[illegible]

大正十年春季東京競馬倶楽部勝馬投票状況調

	第一日					第二日			
投票数	七〇七	八二五	七九四	六四四	計二九七〇	九〇七	一二四八	一九六八	一〇六〇
的中数 的中数	三五七	二四五	三七	六五	八〇四	二〇〇	四九三	三五九	二九〇
的中数 景品券	三	三	二〇	一〇		六	二	三	四
二〇					一				
一〇					一				
八									
六									
五									
四									
三					二				
二									

大正十二年秋季東京競馬倶楽部勝馬投票的中率調

投票総数	[illegible]			
的中票数	[illegible]			
的中総数	[illegible]			
十倍	六倍	四倍	[illegible]	[illegible]
六〇	一六三	一	一五六	一七六
一、二三八				
四三九	一〇七	一	七五四	一三六
六四五五				
一七四	四七二	一	二二四六	六〇〇八

日	第三日				第四日						
計四七八三	八九三	九二八	七七八	計二五九九	九三五	八九九	一一一八	九一三	計三四六五	一三、八一七	
一、三四二	二二四	一三八	五三五	八九七	四二一	一五三	二五七	三九八	一、二二九	四、二七二	
.	五	八	二		一	六	四	三			
										一	
										一	
				一						一	
一									一	二	
				一						一	
一									一	二	
一									一	四	
一				一					一	三	

大正十四年秋季東京競馬倶楽部勝馬投票状況調

	第一日					第二日				
投票数	六一六	九二三	八八三	七六二	計三、一八四	八六九	一、二五二	一、二九五	九一六	計四、三三二
的中数	一六二	二七一	四〇	一五五	六二八	三四九	二一七	三六五	二〇	九五一
的中数 景品券	六円	四	二〇	六		三	五	三	二〇	
二〇					一					一
一〇										
六					二					
五										一
四					一					
三										二

	第三日					第四[illegible]					
投票数	六九六	一、〇一四	[illegible]八	[illegible]四	計[illegible]	[illegible]	[illegible]五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
的中数	九九	三〇六	[illegible]八	[illegible]	[illegible]	六四	[illegible]四	[illegible]八二	[illegible]七	六八七	三、四五五
的中数 景品券	一〇	三	三	三		一〇	五	六	五		
二〇											二
一〇					一					一	二
六										一	三
五										二	三
四											一
三					三						五

司法省刑事局 秘第二號

大正十一年二月二十八日

司法次官 山内確三郎 印

馬政長官石光眞臣殿

競馬法制定ニ関スル件回答

客年七月二十日附親發第一八一號ヲ以テ御照會ニ係ル競馬法案ニ對シテハ別紙ノ如ク修正ヲ加フヘキモノト思考致サレ候得共本案ハ刑法第二十三章ノ例外ノ場合ヲ規定セルモノナルヲ以テ其實施ノ時機ニ付テハ御考慮相煩度候

競馬法案ニ對スル當省ノ意見

一、案第四條第一項ニ付
「二十圓以内」トアルヲ「五圓以上二十圓以下」ト改ムルヲ可トス
理由 競馬ヲ開催シ五圓未滿ノ如キ極メテ少額ノ馬券ヲモ發賣スルコトヲ許ストキハ輕卒ニ馬券ヲ購買スルノ弊害ヲ生ス

一、案第四條第四項ニ付
「三十倍」トアルヲ「十倍」ト改ムルヲ可トス
理由 拂戻金ヲ右以上トスルトキハ之ニ依リ甚タシク射倖心ヲ挑發シ風教ニ害アリト認メタルニ依ル

一、一般ノ入場者ヨリハ一定ノ入場料ヲ徴收ス可キコ

トヲ法文ニ明カニスルヲ可トス
理由 入場料ヲ徴收セサルトキハ公然公道ニ於テ賭博ヲ許スト同様ノ結果ヲ生シ風敎ニ害アリト認ム

一、案第五條ヲ左ノ如ク修正

第五條 學生、生徒又ハ未成年者ハ勝馬投票券ヲ購買スルコトヲ得ス
當該競馬開催者タル社團法人ノ理事、監事、當該競馬ノ開催執務委員、調敎師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者亦前項ニ同シ

理由 本條ヲ二項ニ分チテ規定シタルハ第十三條第四號ノ罰則規定ヲ設クルニ付便宜アルニ依ル
第一項ニ付
生徒モ亦學生ト同樣馬券ヲ購買セシメサルヲ可トス
第二項ニ付
競馬ノ事務ニ從事スル者ヲ加ヘタル所以ハ是等ノ者ハ競馬ニ密接ノ關係アリ且入場料ヲ支拂ハスシテ入場シ得ル點ニ付理事以下列擧セル者ト異ナルトコロナキヲ以テナリ

一、案第十二條ノ罰則規定ヲ左ノ如ク修正

第十二條 主務大臣ノ許可ヲ受ケス又ハ第十條第三號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝

国立公文書館
National Archives of Japan

馬投票券ヲ發賣シタル者並之ヲ購買シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

理由　本條ニ於テ罰スヘキ行為ハ罰則中其ノ情最モ重キモノナルヲ以テ其ノ制裁ヲ加重シタリ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、競馬ノ一競走ニ付一人ニ對シ二枚以上ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者又ハ一人ニシテ二枚以上ノ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二、第四條第三項又ハ第四項ノ規定ニ違反シタル者

三、第五條ニ掲クル者ニ對シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

四、第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

理由　原案第十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ處罰スヘキ場合明確ナラサルヲ以テ修正ヲ加ヘタルモノナリ即チ第一號前段ノ規定ヲ設ケ不法ニ馬券ヲ發賣シタル者ヲ罰スルコトヲ明カニシ後段ノ規定ヲ設ケ原案第十二條第一項第一號ノ場合ヲ規定シタリ但シ同號中ノ「使用シタル者」ハ之ヲ削除セリ是馬券ヲ購買シタル者ヲ罰スルニ於テハ更ニ之ヲ使用シタル者ヲ罰

スル必要ナシト思料シタルニ依ル

第二號ノ場合ハ原案ニ依レハ處罰スル趣旨ナリヤ否ヤ明確ナラサルヲ以テ之ヲ明カニセリ

第三號ハ原案第十二條第一項第二號ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

第四號ヲ設ケタル理由ハ第五條第二項ニ掲クル者ハ同條第一項ニ掲クル學生生徒又ハ未成年者トハ異ナリ競馬ノ業務ニ密接ノ關係ヲ有スル者ナレハ是等ノ者ニ違反行爲アリタルトキニ制裁ヲ加ヘサルトキハ競馬倶樂部ノ秩序ヲ紊リ諸種ノ弊害ヲ誘發セシムルノ虞アルニ依ル

第十四條　前二條ノ規定ハ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

理由　前二條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ其ノ所爲刑法第百八十六條ノ規定ニ違反スルトキハ權衡上同條ノ違反トシテ其ノ刑ヲ加重スルノ必要アルニ依ル

以上

大正十一年十一月

競馬ノ研究

馬政局

国立公文書館
National Archives of Japan

馬匹改良事業ハ近年著シク其ノ功程ヲ進メタルモ尚國防及產業上ノ要求ヲ距ルコト遠ク而カモ產馬經濟ハ年ト共ニ困難ヲ加ヘ國內馬數ハ年々減ノントスルノ際ノ傾向ヲ助長スノアリ保護獎勵ーカ爲當然起ルー馬匹ノ改良增ハモノタルハ各效果シテ如何將馬券ノ利害關係ノ諒解亦十分ナ、一層愼重公明ナル調査ヲ遂クルノ必要アルヲ認ム本篇敢テ此ノ目的ヲ達成シタリト謂ハサルモ以テ本問題研究ノ資ト爲スニ足ラム乎

(公認競馬俱樂部)

東京競馬俱樂部	東京府下荏原郡目黑村
日本競馬俱樂部	橫濱市根岸町
阪神競馬俱樂部	兵庫縣武庫郡鳴尾村
京都競馬俱樂部	京都府船井郡須知町
小倉競馬俱樂部	福岡縣企救郡足立村
新潟競馬俱樂部	新潟市關屋町
中山競馬俱樂部	千葉縣東葛飾郡葛飾村
函館競馬俱樂部	北海道龜田郡湯ノ川村
札幌競馬俱樂部	北海道札幌郡琴似村
福島競馬俱樂部	福島市大字小山荒井
宮崎競馬俱樂部	宮崎縣宮崎町

大正十一年十一月

正誤

頁	行	正	誤
一四	一四	軍馬其ノ他ノ使	軍馬ノ其他使ノ
二五	六	出走馬數四頭	出走馬數三頭
三二	一四	見ルニ及ンテ	見ルニ及ン
三四	三	一部論者ノ馬	一部論
三四	五	(ノ馬ヲ制ル)	ノ馬數

馬匹改良事業ハ近年著シク其ノ功程ヲ進メタルモ尙國防及產業上ノ要求ヲ距ルコト遠ク而カモ產馬經濟ハ年ト共ニ困難ヲ加ヘ國內馬數ハ年々減少ノ狀況ニ在リ此ノ如クシテ馬事不振ノ傾向益々顯著ナラントスルノ際一般經濟界ノ實況及軍備整理ニ依ル軍馬減少ノ影響等此ノ傾向ヲ助長スルモノ愈々多クシテ斯業ノ前途ハ洵ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ保護奬勵上ニ一生面ヲ拓クノ緊急ナルヲ認メスンハアラス而テ之レカ爲當然起ルヘキハ多年ノ懸案タル競馬問題ノ解決ナルヘシ抑モ競馬ハ馬匹ノ改良增殖上最モ有効ナル一機關ニシテ馬事振興上ニ缺ク可ラサルモノタルハ各國ノ實例ニ徵シテ明カナルモ其ノ本邦ニ於ケル効益ノ程度果シテ如何將タ競馬ハ馬券ヲ以テ必須ノ條件トナスヘキヤ否ヤ其ノ他馬券ノ利害關係如何等ニ就テハ從來ノ硏究尙悉ササル所アルカ如ク世人ノ諒解亦十分ナラサルモノアルニ似タリ即チ競馬問題ハ產馬ノ現狀ニ鑑ミ一層愼重公明ナル調査ヲ遂クルノ必要アルヲ認ム本篇敢テ此ノ目的ヲ達成シタリト謂ハサルモ以テ本問題硏究ノ資ト爲スニ足ラム乎

大正十一年十一月

正誤

頁	行	正	誤
四	四	軍馬其ノ他ノ使	軍馬ノ其他使ノ
二五	六	出走馬數四頭	出走馬數三頭
三三	一四	見ルニ及ンテ	見ルニ及ン
三四	三	一部論者ノ馬	一部論
三四	一五	(ノ馬ヲ削ル)	ノ馬數

国立公文書館
National Archives of Japan

目次

第一章　競馬

第一節　各國競馬ノ概況

第二節　競馬ノ利害

第二章　馬券

第一節　馬券ノ種類

第二節　馬券ト競馬ノ關係

第三節　馬券ノ歷史的觀察

結論

附錄　天津競馬ノ賭事

競馬ノ研究

第一章　競馬

第一節　各國競馬ノ概況

欧米各國ハ勿論濠洲南亞印度支那各地ノ邊境ニ至ル迄凡ソ白人ノ居ル所トシテ競馬ノ開催ヲ見サルハナク或ハ單ニ娯樂ヲ目的トスルモノナキニアラサルモ主トシテ産馬振興上ノ要具トナシ政府進ンテ保護ヲ加ヘ之ニ依テ以テ國家ノ要求ヲ達成センコトヲ努ム其ノ中ニ就キ先ツ英佛獨三國ノ事實ト本邦ノ近狀トヲ比較スレハ左表ノ如シ

年次	國名	開催場數	開催日數	競走回數	賞金額
一九一三年	英吉利	一六九場	六三六日	三、八五〇回	六、〇四七、二〇〇圓
	佛蘭西	四九七	一、一六七	六、七八七	五、八八八、六〇〇
	普魯西	一一八	三七〇	二、〇〇〇	二、六四〇、〇〇〇
大正十年	日本	（法人タル倶樂部）一一	七二	五五九	二九六、四六三
備考	本邦賞金額ハ大正十年度ニ限リ政府補助金十萬圓ノ増額アリテ本表ノ額ニ達セシモ大正十一年度ハ十九萬六千餘圓ニ復スルモノトス				

一、英國競馬

英國ハ競馬ノ祖國ニシテ其ノ實行方法及競走馬ノ資質等最モ卓絶シ「ジョッキー」倶樂部ハ世界競馬ノ最高權威ニシテ其ノ規程ハ各國ニ適用セラレ會員ニハ皇帝、皇太子以下皇族及朝野ノ貴紳ヲ網羅スル等品位高尚ナリ競馬ノ歴史ハ遠ク西暦紀元前ニ遡ルモ其ノ發達ハ二百年來ノ事ニ屬シ終始皇室ノ保護ヲ蒙リ就中「アスコット」競馬場ハ皇室ト縁故最モ深ク春季四日ノ大競馬ニハ毎日皇室一門ノ臨場アリ「エプサム」ノ「ダービー」競走ニモ亦皇帝親臨セラレ當日ノ觀衆ハ數十萬ニ達ス

競馬ノ種類ハ平地競走及障碍競走トシ速歩競走ハ全ク之ヲ行ハス通例一日六競走ニシテ開催ハ殆ント終歳ヲ通ス大戰中一時中止ノ厄ニ逢ハントセシモ一部ニ於テ之ヲ續行シ一九一八年休戰締結セラルルヤ直チニ復舊ヲ始メ爾來一層ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ而シテ英國競馬ノ特ニ歎美スヘキ點ハ競走馬ノ優秀ニシテ其ノ調教完全ナルト競馬ノ施行組織的ニシテ規程ノ實施嚴確ナルト觀衆ノ秩序整然タルトニ在リ二百年來練成ノ賜タルヤ言ヲ俟タス

二、佛國競馬

佛國競馬ハ其ノ質ニ於テ稍英國ニ劣ルモ數ニ於テハ遙ニ英國ヲ凌駕シ且英國競馬ノ純然タル「サラブレッド」奬勵タルトハ其ノ趣ヲ異ニシ常ニ馬産ト密接ナル連繫ヲ保持シ乘用種ニ對シテハ平地競走ト障碍競走ヲ併用シ中間種ノ爲ニハ速歩競走ヲ行フ

競馬ノ發達ハ少シク英國ニ後レ第十八世紀以後ノ事ニ屬シ主トシテ國家ノ保護奬勵ニ依レリ開催場數、開會日數及競走回數等英國ニ倍シ全國各地ヲ通シ終歳ニ亘リテ開催シ巴里ノ中外六個ノ競馬場中ニハ一年ノ開催日數四十餘日ニ及フモノアリ大戰中モ少期間中絶セシ外巴里附近ニ於テ殆ント之ヲ繼續シ戰後直チニ復活セリ

三、獨逸競馬

獨逸競馬ハ第十九世紀ノ初發達ノ緒ニ就キ漸次進展シテ終ニ戰前ノ隆盛ヲ致スニ至レリ之亦主トシテ國家ノ保護奬勵ニ依ルモノニシテ「サラブレッド」蕃殖ヲ掌ル「グラヂッツ」國立牧場産馬ノ如キハ公開競馬ニ優勝ヲ得ルニ非ラサ

レハ種牡馬ニ採用セス之ニ依テ得タル賞金ハ牧場經費ノ補足トナシ殘餘ハ產馬奬勵上ニ支出ス獨逸產馬改良ノ大成ヲ以テ一ニ競馬ノ賜ナリト斷スヘキニアラサルモ其ノ改良發達上ニ於ケル功績偉大ナリシハ爭フ可ラサルノ事實ナリトス尙獨逸ハ大戰ノ半一九一六年頃マテ競馬ノ開催ヲ繼續シタリ

四、本邦競馬

本邦ニ近代式競馬ノ開催ハ文久元年居留外人ノ橫濱ニ行ヘルモノヲ濫觴トシ明治十一年ノ交東京三田ニ競馬會アリ次テ戶山ニ開催シ仝十七年上野ニ移リ一時盛況ヲ呈セシモ明治二十三年經濟關係ヨリ終ニ解散シテ獨リ橫濱競馬ノミ引續キ今日ニ及ヘリ

日露戰後馬匹改良ノ急ヲ認ムルヤ明治三十九年閣令ヲ以テ競馬會ノ設立及監督ニ關スル件ヲ公布シ且馬券ヲ默許スルニ及ンテ社團法人タル競馬會續々設立セラレ空前ノ盛況ヲ呈シ大ニ產馬界ノ活氣ヲ招來セシモ明治四十一年十月馬券禁止ノ結果此等競馬會ハ忽チ全滅ノ悲運ニ陷ラントスルニ至リシヲ以テ仝四十三年ヨリ政府ニ於テ設備補助金及開催費補助金等ヲ交付スルコトトナ

リ辛フシテ其ノ命脉ヲ保持ス大正十一年度馬政局豫算設備補助金十六萬三百五圓開催補助金三萬六千八百十八圓賞金十七萬八千圓合計三十七萬五千百二十三圓ニシテ諸建築物ノ如キ多クハ馬券時代ノ急造ニ係リ今ヤ殆ント腐朽廢壞セントスルノ狀態ニ在ルモノ多シ左ニ明治四十一年ト最近ノ實況ヲ比較スヘシ

區分 年次	明治四十一年	大正十年	差引減
競馬會數	一五個	一一個	四個
開催日數	一〇〇日	七二日	二八日
競走回數	一、〇四八回	五五九回	四八九回
出場馬數	二、六七九頭	九八六頭	一、六九三頭
賞金	六三四、三三三円	二九六、四六三円	三三七、八七〇円
入場人員	二三四、五九三人	一三一、五一三人	一〇三、〇八〇人
備考	賞金ハ大正十年度ニ限リ十萬圓ヲ增額セルモノトス		

前記社團法人タル競馬會ノ外各地ニ小競馬會アリ畜産組合ノ開催スルモノニハ馬政局ヨリ獎勵金ヲ交付シ或ハ地方競馬ノ優勝馬ニ賞狀ヲ交付スルモノアリ其ノ獎勵金ハ大正十一年度十一個ノ競馬會ニ對シ豫算額九千二百圓トス

第二節　競馬ノ利害

産馬上ヨリ觀タル競馬ノ利害ハ主トシテ左ノ各項ニ歸着スヘシ以下此等ノ利害ニ付研究ヲ試ミントス

競馬ノ利益
(一)純血種又ハ半血種ノ性能ヲ檢定ス
(二)馬匹ノ能力ヲ增大ス
(三)産馬經濟ヲ有利ニス
(四)馬事思想ヲ鼓吹シ産馬ノ改良增殖ヲ刺戟ス

競馬ノ弊害　纖細菲薄ノ馬ノ獎勵トナル傾向アリ

一、競馬ハ純血種又ハ半血種ノ性能ヲ檢定ス

乘馬ノ性能ハ速力ノ優越ナルニ在リ速力ノ要素ハ悍威筋腱骨及肺心臟ノ發育ニ由ルモノニシテ血液ノ純正ヲ以テ最要件トナシ遺傳力ノ確實ナルニ依テ愈々其ノ價値ヲ昂上ス「サラブレッド」ハ此等ノ要件ノ最モ發達シタル馬種ニシテ其ノ性能ハ速力ニ依テ檢知セラレ速力ノ檢定ハ競馬ニ依ルヲ以テ最モ適確ナリトナスハ本種發達史ノ證明スル所ナリ即チ世界的種馬タル「サラブレッド」ハ二百年來英國ニ於テ競走場裡ノ優勝馬ヲ採テ相配交蕃殖シタル結果ニ外ナラスシテ用途ヨリ云ヘハ乘用種タルモ其ノ血液ハ獨リ乘馬ノミナラス輓用各種ノ改良上ニモ應用シテ功績顯著ナルカ故ニ現代馬種ニシテ多少ナリトモ本種ノ血液ヲ混セサルモノハ稀ナリ特ニ「アラブ」種ニ比スレハ其ノ供給便易ナルヲ以テ各國爭フテ之ヲ採用シ以テ改良原種トナス一九一三年佛國種牡馬五千五百四十八頭中四百三十九頭即チ約八分ノ「サラブレッド」ヲ有スルノミナラス其ノ他ノ純血種又ハ半血種ノ大部モ亦本種系ニ屬セリ本邦ニテモ夙ニ「サラブレッド」ヲ改良上ニ採用シ大正十年現在國有種牡馬九十一頭御料牧場有六頭民有二百十三頭合計三百十頭ヲ有シ外ニ國有蕃殖牝馬四十二頭アリ此等ノ補充ニ其ノ供給必要ナルノミナラス國有ニ於テ定數ニ對シ尙百餘頭ノ不足ア

リ將來ト雖モ血液ノ退化ヲ防止センカ爲ニハ之カ供用ヲ廢止スルコト能ハサルヘク特ニ風土ノ感作ヲ顧慮シ且産馬ノ獨立ヲ期センカ爲ニハ永ク外國輸入ニノミ賴ルコト能ハサルヘキヲ以テ國內ニ於テ之カ生産補給ヲ爲スノ必要アリ此等産駒ノ能力詮衡ハ公開競馬ニ依ルヲ以テ最モ有利トナスヘキハ本種成立ノ歷史ニ顧ミ其ノ實効ニ徵シテ疑ヲ容レサル所ナリ

「サラブレッド」以外ノ純血種又ハ半血種ニ對スル競馬ノ能力檢定ハ素ヨリ「サラブレッド」ノ如ク絕對的ノモノニアラスト雖モ其ノ能力檢定ノ要ハ主トシテ速力ヲ發揮スヘキ諸元ノ詮衡ニ在リ此等諸元ノ發達ハ乘用種ハ勿論輓用種ニ在テモ亦緊要トスル所ナルヲ以テ競馬ニ依ル純血種又ハ半血種ノ能力檢定ハ其ノ頭數多ク種類多キタケ「サラブレッド」ニ比スレハ範圍一層廣大ニシテ方法亦種々ナラサルヲ得ス即チ平地競走障碍競走及速步競走ヲ適當ニ應用シ且速步競走中ニハ輕車競走ヲ加ヘテ輓馬ノ爲ニ之ヲ利用スル如クシ以テ其ノ性能ヲ判定スルニ於テ其ノ効用ハ益々適確ナルヲ得ヘシ明治三十九年以降大正十年迄內地ニ於テ競馬ノ成績優秀ナルモノヨリ蕃殖用トシテ馬政局ニ買收セル馬匹二十八頭中半血種二十三頭ヲ占ムルノ事實ハ明カニ競馬カ「サラブレッド」ノミナラス其ノ以外ノ馬種ニ對シテモ能力詮衡上偉大ノ利益アルヲ證明スルモノト云ハサル可ラス之ヲ要スルニ馬匹利用ノ目的ハ速力ニ在リ乘用種ハ勿論輓用種ト雖モ速力ヲ缺ク能ハサルナリ而テ速力ノ檢定ハ速力ヲ發揮スヘキ諸元ノ詮衡ニ在リ其ノ方法素ヨリ一ナラスト雖モ最モ簡ニシテ且公平適確ナルモノヲ競馬トス蓋シ競馬ノ爲ニハ輓近非常ノ發達ヲ爲セル調教強健法アリ之ニ依テ馬匹ノ能力ヲ最高度ニ進メ競走熱ニ依テ其ノ能力ヲ最高度ニ發揚セシメテ優劣ヲ比較ス勝敗ノ岐ルヽ所ハ能力ノ大小ニシテ而モ此ノ競走ハ衆人ノ嚴密ナル監視ノ下ニ在テ些ノ怠慢又ハ不公平ヲ許ササルナリ即チ競馬ノ能力檢定ハ最モ公正適確ナルモノニシテ外貌視察等眼識判斷ノ動モスレハ誤謬ニ陷ルモノノ遠ク及ブ所ニ非サルヲ知ルヘシ

二、競馬ハ馬ノ能力ヲ增大ス

競馬出場ノ爲ニハ馬匹ニ對シ特種ノ調教強健法ヲ行ヒ極度ニ其ノ能力ヲ鍛鍊スル必要アリ競馬調教ハ尋常一樣ノ調教法トハ異ナリ學理及實驗ヲ積ンテ輓

近著シキ進歩ヲ遂ケ馬匹ノ能力ヲ鍛錬シ最高度ニ其ノ性能ヲ發揮セシムルモノナルヲ以テ此ノ調教ニ依リ馬匹ハ其ノ能力及遺傳力ヲ增進シ實用上ノ素質ヲ昂上ス玆ニ其ノ方法ヲ縷述スルノ暇ナキモ要スルニ競馬調教ハ馬匹ノ實用的性能ヲ增進スル有効手段ニシテ此ノ如キ眞面目ナル能力鍛練法ハ其ノ効果ノ表現鮮明確實ニシテ眼前ニ利益ノ目途ヲ有スル競馬ニアラサレハ之ヲ求ムルコト難ク他ノ調教手段ノ企及シ能ハサル所ナリ

三、競馬ハ產馬經濟ヲ有利ナラシム

競馬カ產馬業ニ及ホス經濟的關係ハ馬ノ販路ノ擴張ト價額ノ騰貴トニ在リ競走馬ノ新陳代謝ニ依リテ蕃殖候補馬ノ販路ヲ擴張スルハ勿論蕃殖用ノ資格ナキモノト雖モ亦競馬界ニ比較的有利ノ販路ヲ求ムルコトヲ得ヘシ即チ競馬ハ良馬ニ對スル有利ノ販路タルト共ニ次級ノ馬匹ニ對シテモ亦販路ヲ開ヒテ以テ產馬經濟ヲ調節ス而テ此等競走馬ノ販路ノ關係ハ競馬ノ盛否ニ由ルコト勿論ニシテ之レヲ競馬會出場新馬ノ頭數ニ徵スルニ明治四十年ノ三百八十五頭ヨリ同四十一年ノ最盛時ニハ一躍六百七十五頭ニ上リ益々增加セントスル形勢ヲ示セリ而モ之レ實際競走ニ出場セシ馬ノ頭數ナルヲ以テ此ノ以外ニ競馬界ニ買收セラレタル多數ノ候補馬アリシヲ思ハサル可ラス然ルニ同四十二年馬券禁止ノ爲ニ競馬ノ衰頹ニ逢フヤ出場新馬ノ頭數ハ忽チ二百五十二頭ニ低下シ更ニ同四十三年ヨリ政府補助金ヲ交付スルニ及ンテ三百四十頭ニ上リ大正元年ニハ四百六十五頭トナリシモ其ノ後ハ四百頭ヲ出ルコトナク近年ハ約三百頭ニ止マレリ若シ補助金ナク競馬ナカランカ此等ノ販路スラモ亦得ルニ由ナカルヘシ尙右新馬中ニハ濠洲輸入馬アリ明治四十一年ノ出場數二百三十六頭ニ達シ良馬蕃殖上ニ貢献スル所尠少ナラサリシカ仝四十二年全ク之ヲ中止シ仝四十四年ヨリ大正八年迄ノ間ニ斷續合計百七十四頭ノ出場アリシノミ馬匹價額ノ騰貴ハ需用ノ增加ト競走心ノ旺盛ニ基クモノナリ由來乘馬ハ各役種中比較的需用少ナクシテ而モ產育困難ナルヲ以テ競馬ノ如キ有利ノ販路ヲ有セサレハ產馬經濟ノ好調ヲ期スルコト難シ輓馬ノ如キハ運送業ノ發展ニ伴フ事實的奬勵アリ農馬駄馬ニ至テハ農耕運搬及肥料ノ關係ニ依ル需用ヲ缺カス其ノ產育容易ニシテ改良ノ必要亦比較的多カラサルモ乘馬ハ即チ然ラス軍

用上ニ其ノ能力ヲ要求スルコト大ニシテ平素需用ノ途甚タ少シ競馬ノ隆盛ハ即チ乘馬畜殖家ノ利益ヲ保護シ其ノ熱心ヲ喚起スルノミナラス延ヒテ一般產馬界ノ活氣ヲ招來スルモノニシテ競馬隆盛ノ當時ニハ一頭ノ內國產馬ニ一萬五千圓ヲ投シタルモノアリ產馬業者ヲシテ羨望ノ眼ヲ輝カシメ產馬界ノ景氣頗ニ昂レルコトアリ此ノ如キハ素ヨリ異例ニ屬スルモ英國ニテハ一歲駒ニ對シ十五萬圓ヲ擲ツモノアリ競馬ノ成績優秀ナルモノニハ四五十萬圓ノ高價ヲ吝マス一回ノ種付料スラ五千圓ニ達ス此ノ如キ馬匹價額ノ騰貴ハ一ニ競馬ノ賜ニ外ナラス其ノ產馬界ニ及ホス影響如何ハ敢テ多言ヲ要セサルヘシ

四、競馬ハ馬事思想ヲ皷吹シ產馬ノ改良增殖ヲ刺戟ス

由來我國民ノ如ク馬事ニ冷淡ナルモノハアラス之レ主トシテ馬匹ニ接觸ノ機會少ナキニ依ルモノニシテ馬事不振ノ原因ノ多ク茲ニ存スルヤ疑ヲ容レス此ノ現狀ニ於テ馬匹ノ改良增殖ヲ說クモ其ノ効果ヤ知ルヘキノミ馬事思想ノ普及ハ即チ刻下ノ急務ニシテ國民ニ馬匹ニ接觸ノ機會ヲ與ヘ快活ニシテ興味多キ競馬ヲ理解セシムルヲ以テ捷徑トナスヘシ蓋シ競馬ハ各種競技中最モ擴大的ニシテ入リ易キモノナリ自ラ競走馬ヲ保有センカ爲ニハ相當ノ資力ヲ要スヘキモ一般觀覽者トシテハ資本モ練習モ其ノ要ナク簡易ニ興趣ヲ味ハシメ得ヘキヲ以テ之ニ依テ國民ヲ馬匹ニ導キ馬事思想ノ普及ニ努メンカ國防上及產業上ノ要求ハ容易ニ理解セラルヘク馬事ノ振興ヲ期スルノ効果必スヤ偉大ナルモノアルヘシ更ニ飜テ產馬業者ニ對スル競馬ノ刺戟ニ付考察センニ抑モ產馬ノ事タル事業困難ニシテ且歲月ヲ要シ一馬ノ生產ニ就テ之ヲ見ルモ蕃殖適齡ニ達スルマテ四五年ヲ要シ偶々種付ヲ行フモ生產率ハ百分ノ五十ヲ出テス受胎日數約三百四十日ニシテ產駒ノ資質ハ甚タ不定ナルノミナラス育成上諸般ノ技術ト煩勞トヲ要シ管理上ニ多大ノ注意ヲ加ヘサレハ其ノ發育ヲ害シ或ハ病傷ニ陷リ一局部ノ傷害ト雖モ忽チ一馬ノ全價値ヲ滅却スルニ至ルコトアリ斯クシテ四五歲ニ及ンテ初メテ用役ニ供セラルルヲ得ヘク其ノ間十年ノ苦心煩勞ハ實ニ局外者ノ想像モ及ハサル所ニシテ之ヲ他ノ畜產ニ比シ或ハ各種ノ產業ニ比スルニ其ノ難易同日ノ談ニ非ラス特ニ原野ノ縮少等ニ依リ產馬經濟ノ關係ハ日ヲ追フテ困難トナリ一方ニハ改良增殖上ノ要求益々加ハルモ報

償之ニ伴ハサルカ故ニ産馬業者カ速成有利ノ事業ニ轉セントスル傾向愈々顯著トナレルハ蓋シ文化普及ノ當然ノ歸結ニシテ今ニ於テ何等カノ方法ヲ講シ新生面ヲ拓クニ非サレハ此ノ傾向ヲ阻止シテ斯業ノ安定ヲ期スルコト能ハサルヘシ即チ競馬ノ隆盛ヲ圖リ其ノ刺戟ニ依テ常ニ産馬業者ヲ鼓舞シ倦怠ヲ鞭撻シ業務ニ對スル興味ヲ喚起スルハ喫緊ノ要務タルヘキニ苟クモ事茲ニ出テス徒ラニ姑息ノ手段ニ賴ラムカ本邦産馬ノ前途ハ洵ニ憂慮ニ堪ヘス比年馬數減少ノ事實ハ明カニ競馬振興ノ必要ヲ訴フルモノト謂ツヘキナリ

五、競馬ハ纎細菲薄ナル馬ノ奬勵トナル傾向アリ

競馬ハ纎細菲薄ナル馬ニ多ク得勝ノ機會ヲ與ヘテ非實用馬ノ奬勵トナルカ如キ傾向ヲ有スル事實ハ絶對ニ之ナシト云フ可ラサルモ人或ハ競馬場ニ在ル馬匹ノ一時的變態ヲ見テ競走馬ノ常態ト誤ルモノナキニアラス競走馬ハ準備作業ニ依リ競走能力ヲ阻害スル贅脂ヲ脱却シテ眞ニ競驅ニ必要ナル筋骨ノミヲ存置スルカ故ニ對照上其ノ體幅ハ比較的偏狹トナリ四肢長ク細ク特ニ腹部ノ緊縮ニ依テ著シク後肢ノ長度ヲ增加スルカ如ク見ユルヲ以テ軍馬ノ其他使役馬若クハ脂肪肥滿ニ陷リタル愛育馬ニ比スレハ一見細薄ノ感ヲ生スヘキモ之ヲ普通ノ飼養ニ移ストキハ其ノ體形ハ一變シテ恰モ他馬ノ如キ觀ヲ呈スルニ至ルモノアリ而モ競馬ハ細薄馬ノ奬勵トナルカ如キ傾向絶無ナリト云フニアラス現ニ米國ノ「トロツター」種カ競馬ノ結果近年著シク細薄ノ傾向ヲ帶ヒタルハ爭フ可ラサル事實ニシテ英國「サラブレツド」ニ就テモ亦同樣ノ傾向アリ良馬ノ標準ニ變異ナキニ拘ハラス一般ニ其ノ體格ハ近年益々細薄ノ傾向ヲ見ルニ至リタルハ競馬方法惡變ノ結果ニシテ主トシテ競走距離ト負担重量ノ二點ニ存ス

競走距離ニ就テハ往時ノ競馬ハ距離數哩ニ及ヒ且「ヒーツ」ト稱シ數回ノ競走ヲ反覆シテ勝敗ヲ決定シタルモノニシテ米國ニハ今日尚若干之ヲ存スルモ英國ニテハ第十九世紀ノ中葉ヨリ全然之ヲ廢止セリ此ノ如キ競走ハ到底持久力ナキ細薄馬ノ堪ユル所ニアラサリシカ「ヒーツ」止ミ且競走距離ハ漸次短縮セラレテ細薄馬得勝ノ機會ヲ增加セリ其ノ實施ノ狀況左表ノ如シ

年次	一哩未滿	一哩	一哩以上二哩未滿	二哩以上三哩未滿	三哩以上四哩	計
一八六一年	六七四回	二六三回	三三九回	一六七回	一三回	一、四六六回
一八八〇年	一、一五六	二三八	一九三	六四	一一	一、六六二
一九〇〇年	一、〇三四	三五八	四六九	六一	二	一、九二四
一九〇六年	一、〇九六	三五一	五五三	一一〇	三	二、一一三

負担重量ニ就テ之ヲ云ヘハ英國ニ於ケル競走馬ノ負担斤量ハ第十八世紀ノ中葉ニ於テ最低四歳馬ノ百二十七斤ヨリ最高七歳以上馬ノ百六十九斤ヲ限度トセシカ現在ノ規定ハ八十五斤ヨリ百三十七斤ヲ以テ限度トス

此ノ如ク距離及重量ノ輕減ハ一ハ三歳馬競走ノ流行ニモ因ルヘキモ一般ニ馬匹ニ對スル競走條件ハ著シク緩和セラレタルヲ以テ從テ細薄馬ノ跳梁ヲ促シ持久的能力アル馬匹ノ實力表現ノ機會ヲ減少シタルハ爭フ可ラサル事實ナリトス即チ競馬カ英國ニ於テ實用的優良ノ「サラブレッド」ヲ作リ上ケタルト共ニ近年菲薄ナル馬ヲモ増加セル事實ヲ見レハ競馬ノ一面ニ纖細ナル馬ヲ奬勵スル傾向ナシトハ云フ可ラサルモ之レ競馬其ノ者ノ罪ニアラスシテ實行方法上ノ缺陥ナリ負擔斤量及競走距離ノ制限ニ依テ之ヲ防止スルコト敢テ難キニアラス現ニ本邦最大賞典競走タル聯合競走二哩ノ第一着馬ヲ檢スルニ明治四十四年以降大正十一年秋季ニ至ル間十七頭ノ平均體尺ハ五尺二寸五分ニシテ五尺三寸ヲ超ユルモノハ六頭ニ過キス五尺四寸ニ達スルモノハ絶對ニナク孰レモ健實ナル體格ヲ具備セルニ徵スルモ明カナリ當事者タルモノ深ク此點ニ注意セサル可ラス特ニ地方小競馬ノ如キ距離短カク屈曲ノ度深ク且斤量ノ制裁ナキモノハ動モスレハ此ノ弊ニ陷リ易キヲ以テ最モ警戒ヲ要スヘシ即チ競馬ノ弊害トシテ數フヘキ一項モ事實ハ此ノ如クニシテ必スシモ絶對的ノモノニアラス又之ヲ除去スルコト決シテ困難ナラサルヲ知ルナリ

第二章　馬券

第一節　馬券ノ種類

馬券ハ其ノ方法ニ依リ大別シテ「ブックメーカー」及「パリミュチュエル」ノ二種トス

一、「ブックメーカー」Bookmaker（英國式馬券）

「ブックメーカー」トハ英語ニテ記帳者ノ義ナリ賭事營業人其ノ取引ヲ一々記帳スルニ依リテ此ノ稱アリ英國ニ始マリ一時歐米諸國ニ行ハレシモ今日此ノ式ヲ行フモノハ英國及濠洲ノ一部ニ限ルヲ以テ玆ニハ英國ノ實狀ヲ說明スヘシ

「ブックメーカー」ハ賭事營業者ト顧客ノ相對關係ニシテ賭事營業人即チ「ブックメーカー」ハ競走毎ニ出走各馬ニ付賭率ヲ定メテ見物人ト賭ヲ爲シ賭金ヲ受領シ置キ勝敗決スレハ勝馬ノ賭客ニ對シ賭率ニ應スル金額ヲ仕拂フモノトス

左ニ之ヲ例示スヘシ

出走馬名	賭率	賭金	馬カ勝チタル場合ニ賭客ノ受取ルヘキ金額
A	一對一	十圓	二十圓
B	一對三	十圓	四十圓
C	二對五	十圓	三十五圓
D	三對二十	十圓	七十七圓
E	一對五十	十圓	五百十圓

此ノ如ク仕拂金額ニ賭金ヲ加算スルハ例令ハ一對一ノ賭率ニ於テハ我レ一ヲ失フカ彼レ一ヲ失フカノ賭ナルニ我レ一ヲ失ハス彼レ一ヲ失フニ依リ二十圓トナリテ還歸スルコトトナルナリ

賭率ハ各馬ノ得勝公算如何ニ依リテ一頭毎ニ異同アルハ勿論「ブックメーカー」各人ニ依リテ亦異ナルノミナラス時々刻々ニ變動スルコトアリ蓋シ「ブックメーカー」ノ胸中ニハ夙ニ勝敗ノ見込確立シアリ之ニ依テ賭率ヲ定ムルモ賭ノ賣レ行キ其ノ他商策ノ關係上之ヲ變更スルコトアルヘク大體ノ相場ハ大差ナキモ變動ノ場合亦少シトセス一競馬場ニハ數十人乃至數百人ノ「ブックメーカー」アリ多クハ助手ヲ隨ヘテ記帳ニ任セシメ人氣馬ノ賭率ヲ連リニ呼號シ其ノ聲耳ヲ聾セントス賭客ハ賭率ヲ聽取シテ所望ノ額ヲ拂ヒ紙札ヲ受領ス此ノ札片ニハ營業人ノ名稱(寫眞ヲ載スルモノ多シ)ト符號樣ノモノヲ印刷記入セルノミニシテ金額モ賭率モ時日モ馬ノ名稱モ明記スルコトナク一ニ營業人ノ記帳ニ信據シ其ノ信用ニ寄賴スルモノトス

賭金額ハ概ネ一磅ヨリ數百千磅ニ達スルコトアルモ中ニハ數志ノ賭ヲ樂シム

モノアリ一年ノ總賭高一億五千萬圓ヲ下ラス獨リ競馬場內ノミナラス場外ニテモ盛ニ行ハレ競馬當日ノミナラス數日若クハ數十日前ヨリ契約ヲ開始シ或ハ當日場內ニテ行フ者アリ場內ヨリ場外ノ「ブックメーカー」ニ電報契約ヲ爲ス者アリ馬既ニ出走スルモ依然トシテ契約繼續スルコトアルノミナラス異議ノ審判中ニモ尙再開スルコトアリ概シテ場內ニ行ハルル賭ハ少額ニシテ多クハ娛樂的ナルモ場外ニテ信用アル店ト顧客ノ間ニ行ハルルモノニハ巨大ノ額ニ達スルモノアリト云フ往時ハ競馬ノ賭ト云ヘハ「ブックメーカー」一方ナリシモ徒ラニ射倖心ヲ挑發シ且賭事營業人ハ一定ノ入場料ヲ納付スルノミニテ競馬會ニ何等ノ收益ヲ及ホササルヲ以テ歐米諸國ハ今ヤ全ク之ヲ禁止シ英國ト濠洲ノ一部ニ尙之ヲ存シ英國ニテハ全然此ノ方式ニ依ルモ近來「パリミユチユエル」實行ノ議運リニ起レリ

二、「パリミユチユエル」Pari-Mutuel（佛國式馬券）

「パリミユチユエル」ハ佛語ニテ相互ノ賭ノ義ナリ競馬會ニテ仲介スル觀客相互間ノ賭ナルニ依リ此ノ稱アリ一八八七年佛國ニ始マリ同國ニテハ國法ノ下ニ此ノ式ヲ專用シ英語國及獨逸ニテハ「トータリゼーター」ト稱シ競馬會ノ特別機關ニ於テ一競走每ニ馬券ヲ發行シ發賣額ノ一部ヲ控除シ殘部ヲ的中者ノ馬券金額ノ割合ニ依リ拂ヒ戾スモノトス「ガニヤン」及「プラツセ」ノ二種アリ同一競馬場ニ於テモ別々ニ行ハル

(一)ガニヤン Gagnant ハ優勝ノ意ニシテ第一著馬ニ對スル賭ナリ即チ第一著馬ノ馬券ニ對シテノミ拂戾ヲ爲スモノニシテ佛國ニテハ總賣上高ヨリ百分ノ十一ヲ控除シ百分ノ八十九ヲ賭金額ニ比例シテ馬券所有者ニ配當ス

(二)プラツセ Placé ハ競馬ノ術語ニ於テ第一、二、三着ニ入ルコトヲ謂フ賭客ノ所有スル馬券ノ馬カ一、二、三着ノ中ニ入ルトキハ何レノ馬ニ對シテモ配當仕拂ヲ爲スモノトス但シ佛國ニテハ二着迄ノ「プラツセ」ハ出場馬四頭以上、三著迄ノ「プラツセ」ハ八頭以上ノ場合ニ限レリ佛國ニ於ケル其ノ配當法ハ馬券發賣總收入額ヨリ先ツ百分ノ十一ヲ競馬會ニテ控除シ然ル后一、二、三著馬ノ馬券賣上高ノ各百分ノ八十九ニ爾他ノ馬ニ對スル馬券賣上總高ノ百分ノ八十九ヲ平分加算シ其ノ各部ヲ賭金額ノ比例ニ應シ配當ス左ニ之ヲ例示スヘシ

出走馬	賭金額	百分ノ八十九	敗馬馬券ノ三分一	計	十圓ノ馬券ニ對スル仕拂額
第一着 A	一、〇〇〇円	八九〇円	四一五円	一、三〇五円	一三円
第二着 B	八〇〇	七一二	四一五	一、一二七	一四
第三着 C	一、五〇〇	一、三三五	四一五	一、七五〇	一二
敗馬 D	七〇〇	六二三	一、二四六円 其三分一 四一五円		
敗馬 E	四〇〇	三五六			
敗馬 F	一〇〇	八九			
敗馬 G	一〇〇	八九			
敗馬 H	一〇〇	八九			
計	四、七〇〇	四、一八三		四、一八二	

濠洲ニ於ケル「ブラッセ」ノ配當ハ少シク佛國ト異ナリ競馬會ニ於テ百分ノ十ヲ控除シ百分ノ六十ヲ一着馬、百分ノ二十ヲ二着馬百分ノ十ヲ三著馬ニ分配シ之ヲ賭金額ニ比例シテ配當ス即チ左表ノ如シ

出走馬	賭金額	仕拂額	十圓ノ馬券ニ對スル仕拂額
第一着 A	一、〇〇〇円	二、八二〇円	二八円
第二着 B	八〇〇	九四〇	一二
第三着 C	一、五〇〇	四七〇	三
D E F	一、四〇〇		
計	四、七〇〇	四、二三〇	

更ニ佛國巴里ロンシャン競馬場ニ於ケル馬券發賣ノ實況ヲ述ヘンニ本競馬會ハ佛國馬種改良奬勵協會ト稱スル競馬會ノ經營スル數個ノ競馬會ノ一ニシテ馬券ハ競馬會ノ直營トスルモ實際ハ請負者ニ依テ實施セラレ中央事務所ニ於テ計算ヲ掌リ小屋樣ノ馬券賣場場内ニ多數散在スルヲ以テ賭客ハ此等ノ賣場ニ付所望ノ金額ヲ拂ヒ所望ノ馬ノ番號ニ相當スル馬券ヲ購入ス發馬スレハ賣

上額ヲ中央事務所ニ集メ計算ヲ爲シ配當額ヲ定ム

佛國馬券ニ關スル規定中ノ要項左ノ如シ

(一)「ガニヤン」ト「プラッセ」ハ各別ニ計算ス

(二)賭金ハ五法ヲ最低トシ其ノ倍數ヲ以テ昻上ス

(三)同一所有者ニ屬スル馬ノ二頭以上出走スル場合ハ同一馬ト見做シテ孰レガ勝ツモ其ノ各馬ニ付配當ヲ爲ス

(四)二十五珊知以下ハ切捨テ以上ハ五十珊知ニ切上ク

(五)支拂ハ檢量係ノ相圖ニ依リ開始ス其ノ以後ニ着順ノ變更アルモ此ノ決定ヲ動カスコトナシ

(六)勝敗ニ付異議起リタルトキハ裁決マテ支拂ヲ延期ス但シ當日中ニ決定セサルトキハ到着順ニ依リ配當ス

(七)賭客ハ賭金額未滿ノ配當ヲ受クルコトナシ

(八)左ノ場合ニハ賭金ヲ返附ス

賭ケタル馬匹ノ出場セサルトキ

出走ノ掲示アリタル馬カ發馬係ノ命ニ從ヒ出走セサルトキ

賭ケタル馬カ競走條件ヲ具備セサリシトキ

何人モ賭ケサル馬ガ勝チタルトキ

出走馬カ悉ク同一馬主ノ所有ニ屬スルトキ

控除金ヲ差引キタル結果配當額カ賭金ヨリ少額トナルトキ

出走馬數三頭又ハ八頭ニ充タサル爲二着又ハ三着ノ「プラッセ」ガ不成立トナリタルトキ

(九)「プラッセ」ニテ二着又ハ三着馬ニ賭ケタル人ナキトキ又ハ賭ケタル馬カ逸出若クハ不合格トナリタルトキハ指定馬數ニ關セス審判係ニ於テ勝馬ト決定シタル馬ノミニ對シ配當ヲ行フ故ニ配當ヲ爲ス馬ハ二頭若クハ一頭ニ減スルコトアルヘシ

(十)二頭若クハ數頭同着ノ場合ニ於テハ賞金ヲ分割スルトセサルトニ關係ナク配當ハ同着馬全部ニ對シ之ヲ爲ス

(十一)馬券ヲ紛失シタルトキハ證明又ハ辨解ハ効力ヲ有セス

（十二）破損切斷又ハ記號不明ナル汚濆馬券ニ對シテハ支拂ヲ爲サス

（十三）當日最終競馬後三十分以内ニ馬券ノ配當ヲ請求セサルモノニ對シテハ發行當日ヨリ七日間協會ノ競馬賭事事務所又ハ競馬場ニ於テ仕拂フ但シ競馬開催當日ハ事務所ニ於ケル支拂ヲ停止スルコトアルヘシ

第二節　馬券ト競馬ノ關係

馬券ハ左ノ理由ニ依リ競馬ノ効用ヲ適確ナラシム

（一）競馬觀覽ノ趣味ヲ深刻ナラシム
（二）競馬ノ施行ヲ嚴正ナラシム
（三）競馬ノ經濟ヲ有利ナラシム

一、馬券ハ競馬觀覽ノ趣味ヲ深刻ナラシム

競走ノ勝敗ハ偶然ノ結果ニアラス血統體格及調教ニ於テ傑出シ巧妙ナル騎手ニ乘御セラルル馬匹ハ必ス優勝スヘキヲ以テ眼識高キ觀覽者ハ豫メ之ヲ識別スルコト難カラスト雖モ其ノ勝敗ニ付何等利害關係ナキニ依リ特別ニ馬ニ趣味ヲ有スルモノナラサル限リハ敢テ眼識ヲ勞センコトヲ努メス漫然競走ヲ見スルニ止マリ其ノ興趣甚タ索然トシテ觀覽ノ興味薄カルヘキモ一旦馬券ヲ手ニスルヤ其ノ馬ハ恰カモ自己ノ所有物ナルカ如キ一種ノ心理狀態ヲ現ハシ觀覽ノ熱度急ニ加ハリ勝敗ニ對シ責任感ニ似タルモノヲ生スルヲ常トス必スシモ其ノ金額ノ多少ヲ問ハス要ハ眼識ヲ確保スル物件ノ存在ニ在リ而テ其ノ的中ニ依テ若干金ノ交付ヲ受クルヤ自己所有馬ノ勝利ト併セテ眼識優越ノ表彰ヲ得タルカ如キ愉快ヲ感ス失敗ニ對スル不快モ亦反對ニ大ナルヘク斯クシテ觀覽ノ興味ハ愈々深刻ナルヲ得ヘシ其ノ相馬上ノ素養經驗ナキモノニ在テハ馬券ノ得喪ニ伴ヒ益々鑑識ノ熱心ヲ加ヘテ相馬眼ヲ養成シ觀覽ノ趣味ヲ理解スルニ至ル馬券ノ有無ニ依テ競馬觀覽ノ趣味ニ著大ノ懸隔アル此ノ如シ之ニ依テ國民ノ馬事思想ヲ鼓吹スル効果ノ適確ナル復タ多言ヲ要セサルナリ

二、馬券ハ競馬ノ施行ヲ嚴正ナラシム

競馬施行方法ノ良否ニ甚ク利害關係者ハ馬券ナキ場合ニ在テハ主トシテ馬主ノミニ止マルモ一旦馬券ヲ發賣スレハ此ノ關係ハ觀覽者ニ其ノ範圍ヲ擴張シ競馬ハ多數觀衆ノ嚴格ナル監督ノ下ニ施行セラルル事トナリ實施上怠慢又ハ

不法ヲ許サザルヘシ詳言スレハ馬券ヲ手ニスル觀覽者ノ熱心ハ馬主及騎手ヲ緊張セシメテ調教及競走ニ全力ヲ傾注セシメ馬ノ實力ヲ最大限度ニ發揚セシメ以テ馬匹ニ對スル眞正ナル能力檢定ヲ行ハシムルヲ得ヘシ之ニ反シ馬券ナキ競馬ニ於テハ觀覽者ノ熱度足ラス馬主及騎手モ其ノ刺戟ヲ受ケサルヲ以テ啻ニ競走熱ヲ冷却スルノミナラス動モスレハ相協定シテ不正ノ競走ヲモ敢テスルニ至ラントス觀衆ノ熱心嚴正ナル監督ハ最モ公平確實ナル能力檢定ノ要義ニシテ馬券ノ有無カ重大ノ關係ヲ有スルヲ知ルヘシ

三、馬券ハ競馬ノ經濟ヲ有利ナラシム

競馬會收入ノ主タルモノハ會員ノ醵金、登錄料及觀覽者ノ入場料ナルモ其ノ額微々タルヲ以テ有效ナル競馬ヲ擧行スルニ足ラス本邦社團法人競馬倶樂部十個(日本競馬倶樂部ヲ除ク)ノ大正十年度收支決算ハ五十五萬三千七百二圓ニシテ收入ノ中國庫補助金二十三萬九千二百五十八圓ヲ控除スルトキハ倶樂部收入ハ三十一萬四千四百四十四圓トナリ其ノ内入場料二十二萬五千六十六圓ニシテ收入ノ大部ヲ占ムルモ入場料ノ最モ多キモノハ勝馬投票ヲ行フ東京、京都神中山、福島、函館、札幌及新潟ノ八倶樂部ニシテ入場料ハ即チ無償ニテ入場券ニ添付スル勝馬投票券ノ代償ト見ルヘキニ依リ八倶樂部ノ入場料總額二十二萬三千四百四十三圓ヲ控除スルトキハ十個ノ競馬倶樂部ノ純收入ハ僅ニ九萬九百一圓ニ過ギス一倶樂部平均一萬圓ニ達セサルナリ此ノ如クシテ現在競馬倶樂部ハ主トシテ政府ノ補助金ニ依リ辛フシテ存續シアルモ積極的ニ其ノ効果ヲ發揚センカ爲ニハ巨額ノ資金ヲ要ス佛國馬種改良奬勵協會競馬倶樂部ノ一九一三年度收支決算ハ二百七十五萬圓ニシテ一九一七年濠洲「シドニー」市ノ「ジヨツキー」倶樂部ハ百三十六萬八千圓「ニユージランド」ノ「カンターバリー」、「ジヨツキー」倶樂部ハ六十六萬一千圓ナルヲ見レハ僅少ノ資金ヲ以テ有効ノ競馬ヲ開催シ得ヘカラサルヤ明カナリ此等巨額ノ財源ハ各國競馬會ノ孰レモ苦心スル所ニシテ馬券ノ利用ヲ已ムヲ得スト爲ス所以ナリ其ノ馬券發行ニ際シ控除スル金額ノ割合左ノ如シ

國名	控除額	使途區分		
		競馬會	政府ニ納入	其他
佛國	一割一分	四分	一分五	五分五

獨逸	二割		二割	—
濠洲ニユーサウスウヱールス	一割	二分	七分	—
ニユージーランド	一割	四分五	五分五	—
アルゼンチン	一割	五分	五分	—

佛國ニ於ケル馬券ノ發行總額ハ大戰前一億五千八百萬圓ナリシモノ一九二〇年ニハ五億三千萬圓ヲ超ヘ控除總額五千八百三十萬圓ニ達シ其ノ中競馬會ノ收入ハ二千百二十萬圓トナリ其ノ大部ハ賞金ニ使用セラルルヲ以テ平地競馬一競走最低額通常一千圓ヲ下ラス最高十二萬圓ニ達ス英國ニ於テハ賞金ノ最高額約九萬圓ナルモ馬主一人一年ノ所得ハ一九二〇年ニハ最高十九萬圓ニシテ倂テ七十萬圓ニ達セシコトアリ此ノ如キ多額ナル賞金ノ馬主ヲ利スルノ大ナルハ勿論直チニ產馬界ニ影響シテ產馬經濟ヲ有利ナラシムルノ効果亦實ニ偉大ナリ尚ホ佛國ニ於テハ馬券發行ニ際シ競馬會ニ控除收入スル金額ノ外前表ニ示ス如ク發賣額ノ百分ノ一、五ヲ國庫ニ收入シテ純血種改良上ノ奬勵金ニ充テ更ニ百分ノ五、五ヲ公共事業ニ使用ス其ノ割合左ノ如シ

百分ノ二　慈善事業
百分ノ一　村共有水道事業
百分ノ一　大戰ニ依リ荒廢シタル地方ノ慈善事業
百分ノ一　大戰ニ依リ荒廢シタル地方ノ水道事業
百分ノ〇、五　農學校ノ創立及改善

本邦ニ於ケル公認競馬倶樂部ノ競馬賞金ハ大正十年度ニハ政府豫算十七萬八千圓ニ十萬圓ノ增額アリシヲ以テ競馬倶樂部及地方費等ノ支出ヲ合セテ二十九萬六千四百六十三圓ニ達セシモ政府豫算ノ增額ハ同年度ニ限ルカ故ニ其ノ他ノ不定ナル支出ト共ニ之ヲ控除スルトキハ賞金ノ固定財源トシテハ政府補助金十七萬八千圓アルノミ其ノ一競走ニ對スル平均額ハ三百四十圓ニシテ出場馬一頭ニ對スル平均額ハ百九十七圓ニ過キサルナリ一面競走馬所有者カ一馬ノ管理調教ニ要スル經費ヲ顧ルトキハ其ノ年額ハ千五百圓內外ニ上ルヲ以テ一着賞ヲ得ルモ僅カニ三箇月分ノ費用ヲ償フニ過キス之ニ馬匹ノ原價六七

百圓乃至數千圓ヲ加フルトキハ如何ニ馬匹ノ趣味ヲ有スルモノト雖モ收支ノ懸隔餘リニ甚シキヲ怨嗟セサルヲ得サルヘシ其ノ勝利ヲ得サルモノノ如キニ至テハ素ヨリ何等報償セラルル所ナク全然損失ニ終ルヘキヤ勿論ナリ若シ賞金ヲ增額シテ一競走平均二千圓トシ且競走回數ヲ增加スルトキハ勝馬ノ馬主ヲシテ管理費ノ年額ト馬匹原價ノ一部ヲ償ハシムヘキヲ以テ馬匹ノ保有ヲ勸誘シ出場馬ノ增加ヲ促スニ相當ノ効果アランモ之カ爲ニハ約二百萬圓ノ財源ヲ要スヘク幸ニ財政上ニ其ノ餘裕ヲ見出スヲ得ハ可ナルモ今日財政ノ現狀其ノ餘裕ナク補助金增額ノ途ナシトセハ即チ馬券發行ニ依ル收入ニ俟ツノ外アラサルヘキナリ

第三節　馬券ノ歷史的觀察

一、外國ニ於ケル馬券ノ來歷

佛國ノ競馬賭事ハ一八五六年ノ頃ヨリ漸次隆盛トナリ一八七六年ニ至リ風敎上ノ顧慮ヨリ內務省令ヲ以テ一部ノ禁止ヲ行ヒタルモ此ノ制裁ハ有名無實トナリ「ブツクメーカー」盛ニ其ノ業ヲ營ミ特ニ勞働者ノ熱中甚シキヲ見ルニ及ン

一八八七年警視總監先ツ巴里市管內ノ競馬場ニ於ケル賭事ヲ禁止シ次テ內務大臣ハ全國ニ亘リ競馬ノ賭事ヲ嚴禁シタリ之カ爲入場人員ハ忽チ半減シ競馬界ニ大恐慌ヲ來セルヲ以テ直チニ復活ノ議起リ「パリミュチュエル」ヲ慈善事業ノ富籤ト認メテ之ヲ許可スルコトトナレリ蓋シ法規上慈善事業ノ富籤許否ハ內務大臣ノ權限ニ在リシヲ以テナリ今日尙馬券收入ノ一部ヲ慈善事業ニ使用スルハ此ノ歷史的關係ニ由ルモノトス其ノ後馬券ハ年ヲ追フテ愈隆盛トナリ巴里附近ノ一競馬會ノ如キハ一年ニ二百日ノ開催ヲ爲シ巴里近傍三競馬場ノ合計開催日數ハ三百十五日ノ多キヲ數フルニ及ンテ民衆ノ射倖心ヲ增長スルコト甚シク風敎上默視ス可カラサル狀況トナリ一八九一年二月二十八日內務大臣ハ「パリミュチュエル」取締ニ關スル法案ヲ議會ニ提出セシカ議會ハ法律ヲ以テ之カ取締ヲ爲スノ必要ヲ認メストノ理由ノ下ニ否決シタルヲ以テ內務大臣ハ直チニ全國ノ馬券ヲ禁止シタリ此ノ禁止ハ前回ト等シク忽チ競馬會ニ大打擊ヲ與ヘ產馬上ニ及ホス損害甚シカラントスルヲ以テ農務大臣ハ更メテ競馬ニ關スル法律案ヲ議會ニ提出シ競馬ノ現況ハ公衆ノ射倖心ヲ挑發スル

コト甚シキカ故ニ之ヲ取締リテ馬匹改良ノ目的以外ニ開催スルコト勿ラシムルノ必要ヲ說明シタリ本案ニ對スル下院委員長「リオトウ」氏ノ報告ハ競馬ハ馬匹改良上必要ニシテ馬券ハ競馬ニ缺ク可ラサルモノタルコトヲ述ヘ一部論者ノ馬匹改良ハ國家ノ要求ニ基クモノナリトセハ政府ニ於テ宜シク競馬ニ要スル經費ヲ支出スヘシト云ヘルニ對シテ左ノ如キ辯駁ヲ加ヘタリ即チ現在競馬ノ賞金ハ二百五十七萬圓ニシテ此ノ內國庫ノ負擔ハ十八萬圓ニ過キサルニ依リ現ニ競馬會カ支出シアル二百三十九萬圓ヲ國庫ノ支辨ニ加フレハ可ナルヘキモ我財政ノ實況ヲ顧ミレハ一頭ノ種牡馬ノ買收費ニ對シテスラ數日ノ審議ヲ重ヌルカ如キ狀況ナルニ如何ソ此ノ巨額ノ支出ヲ敢行スルヲ得ムヤ之レ云フヘクシテ行フ可ラサル空論ナルノミト斷シ假令又法律ヲ以テ競馬賭事ヲ嚴禁シタリトスルモ暗々裏ニ行ハルルモノハ到底取締ルコト能ハサルヘキヲ以テ寧ロ公開シテ取締ヲ勵行スルヲ有利ナリトシ馬券ノ効益ヲ縷述シ委員會ハ八十六縣會ニ照會シテ六十四縣會ノ贊同回答ヲ得タル旨ヲ附言セリ此ノ法案ハ議會ヲ通過シ同年六月二日ヲ以テ現行法律ヲ發布シ七月ニ入リ施行規則ヲ發布シタリ

「パリミュチュエル」實施以來佛國馬種改良獎勵協會ノ競馬場ニ於ケル馬券發行額左ノ如シ

年次	開催日數	發行額	一日平均
一八八七年	二六日	五、五一八、三一二円	二一二、二四二円
一八八八年	三三	一〇、六〇七、三一八	三二一、四三四
一八九〇年	三五	一二、七四一、六九四	三六四、〇四八
一八九二年	三五	一八、七二〇、二七〇	五三四、八六四
一九〇〇年	三六	二三、六二六、九六八	六五六、三〇四
一九一三年	三七	三三、〇〇六、七五〇	八九二、〇七四

普國ノ競馬賭事ハ一八七〇年ニ始マリ漸次隆盛トナルヤ此ノ國ニテモ亦司法部及宗教社會ノ問題トナリ遂ニ一八八一年一旦其ノ禁止ヲ見ルニ至リシモ政府ハ產馬上ノ關係已ム可ラサルヲ認メテ一八八六年ヨリ再ヒ之ヲ許可シ一八

九一一年以來印紙稅法ニ依リ馬券ニ印紙稅ヲ課シタルカ一九〇五年法律制定ノ必要ヲ認メ議會ノ協賛ヲ經テ法律ヲ制定セリ戰后ノ事實ハ調査中ニ屬スルヲ以テ之ヲ略ス

亞米利加合衆國ニ於テモ馬券問題ハ多年ノ懸案ニシテ紐育州ハ一九〇八年一旦之ヲ禁止セシカ產馬上ノ不利甚シキヲ悟リ一九一三年以來制限ノ下ニ之ヲ復活セリ其ノ他「ケンタッキー」州「マリーランド」州ノ如キ主要產馬地ニテハ從來何等ノ事故モナク終始之ヲ實行セリ

英國ハ國家トシテ產馬ニ無干涉ナルカ如ク競馬ニ對シテモ亦何等ノ制限ナク全國到ル處ノ競馬場ニ「ブックメーカー」ノ聲ヲ聞カサル所ナシ而モ近來ノ傾向ハ「パリミュチュエル」ノ創設ニ在リ其ノ聲漸ク大ナラントス

二、本邦ニ於ケル馬券ノ經驗

明治三十九年十二月閣令ヲ以テ競馬會ノ設立及監督ニ關スル件ヲ發布シ民法第三十四條ニ依ル公益法人ニシテ一哩以上ノ馬場其ノ他必要ノ設備ヲ具ヘ且每年新馬ヲ出場セシムルモノニ限リ競馬ヲ施行シ得ルコトトナシタルカ此ノ前既ニ馬券默認ノ事政府部內ニ於テ決定シアリタルナリ然ルニ本令ノ發布ニ依リ競馬會續々設立セラレ馬券ハ忽チ豫想外ノ發展ヲ爲セリ東京競馬會(池上)ニ於ケル發行ノ狀況左ノ如シ

年季	開催回數	競馬回數	入場人員 (人)	馬券發行額 枚數 (枚)	馬券發行額 金額 (円)	馬券發行額 一日平均 (円)
明治三十九年秋季	四	三七	一五、五〇〇	一九、二〇〇	九六〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
同四十年春季	七	七七	二八、〇〇〇	三七五、四〇〇	一、八七七、〇〇〇	二六八、一四二
同年秋季	四	四四	二一、三〇〇	一五八、〇〇〇	一、五八〇、〇〇〇	三九五、〇〇〇
同四十一年春季	四	四四	一六、八九九	二〇、一六六	二、〇二一、六六〇	五〇五、四一五

此ノ如ク馬券ハ急劇ニ發展シ國民ノ射倖心ヲ增長シ風敎上非難スヘキ點少ナカラサルノミナラス新刑法ノ條文昭トシテ默認ヲ許ササルヲ以テ明治四十一年十月政府ハ其ノ發行ヲ禁止シタリ其ノ後大正三年東京競馬俱樂部ニ於テ競馬趣味ノ增加ヲ圖ランカ爲勝馬投票ヲ始メ入場券ニ投票券ヲ添付シ投票ノ適中者ニ商品切手ヲ交付スル方法ヲ取リ日本(橫濱)函館札幌中山新潟福島京都阪

神及小倉ノ各俱樂部之ニ倣ヘルモ素ヨリ馬券ニ代ルヘキモノニアラス其ノ効果ノ微々タルヤ言ヲ俟タサルナリ

顧ミテ馬券當時ノ競馬ノ實況ヲ見其ノ競馬及産馬ニ與ヘタル影響ヲ觀察スルニ左ノ如シ

(一) 競馬ノ隆盛ヲ致セルコト

競馬會ノ明治三十九年秋季ニ開催セシモノ二個ニシテ其ノ日數八日、競走回數七十一回、出場馬匹百二十五頭、收入金額拾五萬六千六百參拾四圓ニシテ賞金四萬貳千貳百四拾參圓ニ過キサリシカ同四十一年ニハ後半期ニ於テ馬券ノ禁止ニ逢ヒタルモノアルモ春季十三、秋季十四個ノ競馬會ニ於テ合計百日ノ開催ヲ爲シ競走回數千四十八回、出場馬數二千六百七十九頭收入金額百七十七萬八千七百四圓賞金六十三萬四千三百三十三圓ノ多キニ達セリ之ヲ本邦競馬ノ最盛時トシ仝年十月馬券ノ禁止セラルルヤ翌四十二年ニハ春季七個秋季八個ノ競馬會ニ於テ開催日數四十八日競走回數四百十四回出場馬數七百六十頭、收入金十二萬千五百一圓賞金七萬五千七百八十三圓ニ低下シ競馬ノ存續不可能ノ狀態ニ陷リシヲ以テ仝四十三年政府ハ競馬會ノ併合ヲ行ハシメ十一個ニ限リ仝年以降補助金ヲ交付スルコトトナレリ

(二) 地方産馬ヲ振興シタルコト

明治四十年ノ交我競馬ノ隆盛ハ忽チ地方ニ反響シ産馬界ノ活氣頓ニ昂リ本邦馬匹ハ著々其ノ數ヲ增加シ其ノ資質ヲ昂上セリ資質ノ昂上ハ數字的ニ單簡ニ證明スルコト困難ナルモ馬數ニ就テ之ヲ云ヘハ明治三十九年末ノ百四十六萬臺ヨリ仝四十二年末ニハ百五十五萬臺ニ昇騰シ其ノ隋勢ヲ以テ爾后數年間引キ續キ增加ヲ見タルモ大正三年以降ハ減少ノ一方ニシテ大正九年末ニハ終ニ復タ百四十六萬臺ニ低下セリ此ノ如キ馬數ノ增減ヲ以テ一ニ競馬盛衰ノ結果ナリト斷定スルハ早計ナルヘク諸他ノ奬勵ノ効果ヲモ併セテ考慮ニ加フベキハ勿論ナルモ他ノ奬勵法ニ著シキ變改ナキ限リ競馬カ其ノ主要ノ一因子タリシハ否定ス可ラサル事實ナルヘシ

主要産馬地ニ於ケル馬匹價額ノ騰貴ノ如キモ亦馬券時代競馬振興ノ影響トシテ注目ニ値ヒスヘシ即チ青森岩手宮城ノ優秀馬産地ニ於テ明治三十八年

ノ賣買平均價額ハ四十二圓乃至五十三圓ナリシモノ四十一年ニハ六十圓乃至七十八圓トナリ忽チニシテ約五割ノ騰貴ヲ爲シ適切ニ競馬振興ノ結果ヲ表現セルハ馬券禁止ノ翌年明治四十二年ニ入リ直チニ四十九圓乃至七十圓ノ平均價ニ低落シタルニ徴スヘシ

此ノ如ク馬券ノ產馬上ニ與ヘタル功績ハ偉大ナルモ一方ニ馬券ノ弊害多カリシハ又蔽フ可ラサル所ニシテ其ノ事實ト認ムヘキモノ左ノ如シ

（一）場內ノ秩序ヲ紊リ且諸種ノ紛議ヲ生シタルコト

郊外遊戲ノ訓練ナキ我國民ニ對シ突如タル競馬ノ勃興ハ場內ノ整理ヲ困難ナラシメ屢喧騷紊亂ノ醜態ヲ惹起セリ畢竟競馬當事者ニ業務上ノ實驗足ラス國民ニ馬券ノ經驗ナカリシニ因ルナリ

（二）競馬ヲ營利ノ目的ニ利用シタルモノアリシコト

公益ヲ目的トスヘキ競馬會ニシテ馬券ノ收入多キヲ見ルヤ忽チ之ヲ營利ニ利用シ異體同心ノ營利會社ト連絡シテ其ノ收益ヲ配當スル等ノ弊害ヲ生セリ

（三）射倖心ヲ挑發シタルコト

日露戰後人心一般ニ浮華ニ傾キタル時ニ際シ馬券ニ何等ノ制限ナカリシヲ以テ國民ノ射倖心ヲ增長スルコト甚シク中ニハ之ニ依テ產ヲ傾クルモノヲ生スルニ至レリ

右ノ如ク弊害ノ默視スヘカラサルモノアリシト共ニ道途ノ風聞又ハ新聞記事等ニハ事實ノ誇張少ナカラサリシトスルモ結局當時ノ狀況ヲ以テ推移スルニ於テハ弊害ノ及フ所測リ知ル可ラサルモノアリシハ疑フ可ラス而モ大部ハ實行方法及監督上ノ缺陷ニ歸スヘキモノナリトス

結論

敍上ノ研究ニ依リ競馬ハ產馬獎勵上最モ有効ナル一機關ニシテ其ノ効果ヲ適確ナラシムルニハ馬券ノ實施ヲ必要トスルコト明カナリ然ルニ今日尚實行ニ躊躇スルモノハ多クハ往年ノ事實ヲ想起シ其ノ弊害ヲ繰リ返サンコトヲ恐ルルニ由ルカ如シ而モ明治四十年ノ交ニ於ケル馬券ハ制限ナク經驗ナク監督至ラサル殆ント無制裁ノモノニシテ其ノ弊害ノ增長ハ蓋シ當然ノ趨向ナリシナリ外國競馬ノ發達史ヲ顧ミルモ此ノ種ノ苦カキ經驗アリ而モ產馬上ノ關係已

ム可ラサルモノトシテ今日之ヲ實行シテ而テ弊害ノ訴ヲ聞カス我邦ニテモ馬券禁止セラレテ以來十有餘年一旦ノ失敗ニ懲リテ后馬券ニ對スル愼重ナル研究ヲ積ミ弊害除去ノ方法ヲ考究シテ相當ノ成案ヲ得ルニ至レリ即チ馬券ノ方式ヲ改メ嚴格ナル制限ヲ設ケ當事者ノ精選ト至嚴ナル監督制裁ヲ以テ風教上ノ弊害ヲ防止シ且之ヲシテ馬匹ノ改良増殖ノ目的以外ニ脱逸スルコトナカラシメ局所的試練ニ依リ國民及當事者ヲ訓練シツツ歩々漸進シテ遂ニ其ノ効用ヲ發揮スルニ足ル程度ニ達セシメントスルニアリ其ノ勝馬投票實施ニ關スル要項左ノ如シ

（一）勝馬投票券ノ券面金額ヲ制限シ且一競走ニ付一人一枚ヲ限ルコト

（二）投票的中者ニ對スル拂戻金額ヲ投票券面ノ若干倍以内ニ制限スルコト

（三）學生未成年者及當該競馬ノ關係者ハ勝馬投票券ヲ購買スルコトヲ得サラシムルコト

（四）勝馬投票ニ關スル規定ニ違反シタルモノニ對シ嚴重ナル罰則ヲ設クルコト

（五）競馬及勝馬投票ニ關スル規定並ニ競馬會役員ノ就職ハ凡テ主務大臣ノ認可ヲ受ケシメ又主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ競馬倶樂部ノ設立ノ取消、競馬ノ停止、勝馬投票ノ停止制限等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルコト

右各項其ノ他ニ就テハ更ニ具體的ノ調査ヲ遂ケタルモ尚考究中ニ屬スルモノアルヲ以テ茲ニ之ヲ掲ケサルモ其ノ勵行ハ決シテ困難ナラス此ノ方針ノ下ニ競馬ヲ奬勵スルニ於テハ其ノ弊害ヲ除去シ其ノ効益ヲ發揮スルコト敢テ難カラサルヘキヲ信スルナリ抑モ産馬業ノ經營ハ往時原野廣ク其ノ使用自由ナリシ時代ニ在テハ主飼料タル草ノ供給裕カニシテ強健性ノ鍛錬ニ必要ナル放牧ノ地積亦十分ナリシヲ以テ著シキ困難ナカリシモ近年開墾及植林ニ壓迫セラレテ草野ハ年々縮少シ且使用料金ヲ騰貴スルノミナラス馬匹ノ能力増進ノ要求ハ良草良穀ノ給與ヲ伴ヒ其ノ他勞働賃金ノ騰貴等飼養管理費ノ増加ヲ來スニ至リ其ノ經營ハ到底往時ノ野生的簡易ノ飼育法ニ甘ンスルヲ得スシテ生産費ノ昂騰ヲ促スモ之ニ對スル需用方面ノ報償十分ナラス産馬經濟ハ年ト共ニ困難ヲ加フルニ其ノ事業ノ性質悠久的ナル他ノ産業ノ資本回收及成功ノ急速

ナルノ比ニアラサルノミナラス事業ノ成果不安定ニシテ歲月ト煩勞トヲ要スルコト甚シク當業者ハ其ノ業ニ安ンスルコト能ハスシテ動モスレハ產馬業ノ安定ヲ缺キ萎靡不振ノ狀ニ陷ラントシ諸般ノ獎勵ヲ加フルニ拘ラス近年其ノ傾向益々顯著ナラントスル所以ナルヘシ此ノ狀勢ハ獨リ我邦ニ限ルモノニアラス各國其ノ軌ヲ一ニシ其ノ結果トシテ孰レモ巨額ノ經費ヲ投シテ產馬業ノ維持安定ニ努メツツアリ之ヲ佛國ノ例ニ徵スルニ其ノ產馬獎勵上ニ支出スル金額ハ大戰前ニ於テ千七拾五萬圓ヲ超ヘ戰後ニハ更ニ增加シタルモ未タ確數ヲ得サルヲ以テ假リニ此ノ數字ヲ以テ大正十一年度ノ我馬政局產馬獎勵費豫算四拾九萬叁千七拾八圓ニ對比スルトキハ其ノ馬格ニ幾段ノ差異ヲ有スル彼ハ其ノ獎勵費ニ二十餘倍ノ多額ヲ支出シアルナリ而モ其ノ大部ハ主トシテ競馬馬券ノ收入ニ屬シ國庫ノ直接負擔額ハ其ノ一割五分ニ過キサルヲ見ルニ於テ彼カ產馬獎勵上競馬ニ重キヲ置ク眞意ヲ知ルニ難カラサルナリ我產馬獎勵費ハ財政ノ現狀ニ對シ必スシモ輕シト謂フ可ラス之ガ增額ハ頗ル困難ノ狀ナルニ一面產馬ノ現狀ヲ顧ミレハ諸般ノ事情ハ益々獎勵擴張ノ緊急ヲ訴フルニ

於テ競馬ニ依リ獎勵上ニ一生面ヲ拓キ嚴密ナル制裁ノ下ニ馬券ヲ公許シテ其ノ効益ヲ適確ナラシメ以テ此ノ急ニ應スルノ外アラサルヲ知ルナリ

附錄　天津競馬ノ賭

天津競馬倶樂部ノ賭事ハ四種ノ方法ニ依リ實施セラル左ノ如シ

一、パリミユチユエル　Pari-Mutuel

一票五圓トシ出場馬ノ内第一著馬ヲ豫想シ其ノ馬ノ番號ヲ記載シタル馬券ヲ買フモノニシテ第一著的中者ニ對シ馬券賣上總金額ヨリ一割ヲ倶樂部ニ收入シ五分ヲ赤十字社寄附金トシテ差引キ其ノ殘額ヲ配當ス

二、プレース、ベッチング　Place Betting

一票五圓トス掲示表ニ依リ出場馬ノ番號ヲ見之ニ依リ勝馬ヲ豫想シ其ノ番號ヲ記載シタル馬券ヲ買フモノニシテ其ノ馬カ第一著トナラサルモ第二、第三著トナリシトキハ各相當ノ配當ヲ受クルモノナリ但シ出場馬五頭以内ナルトキハ第二著迄、三頭以内ナルトキハ第一著ノミニ配當ス

配當法ハ馬券賣上總金額ヨリ一割ヲ倶樂部ニ收入シ五分ヲ赤十字社寄附金トシテ差引キ其ノ殘額ヲ左ノ方法ニ依リ分配ス

（一）第一著ニハ七、割第二著ニハ二割、第三著ニハ一割ノ割合ニ分ツ

（二）右分割シタル金額ヲ更ニ各賣上馬券數ニ依リ分配ス

此ノ方法ニ依レハ一著ニ適中シタル者必スシモ二三著ノモノヨリ配當額多シトハ限ラス例ヘハ左ノ如シ

着順	出走馬	馬券數	賭金額			分配割合	分配金額	各人配當額
	A	二〇〇枚	一、〇〇〇円	倶樂部收入	二、四〇〇円			
第二著	B	二〇〇	一、〇〇〇	赤十字寄附	一、二〇〇	二割	三、八八円	一九、四〇円
	C	一、五〇〇	七、五〇〇	差引額計	三、六〇〇			
第一著	D	一、〇〇〇	五、〇〇〇	殘（分配總額）	一九、四〇〇	七割	一三、五八	一三、五八
	E	七〇〇	三、五〇〇					
第三著	F	八〇〇	四、〇〇〇			一割	一、九四	二、四[illegible]
	G	一〇〇	五〇〇					
	H	一〇〇	五〇〇					
計		四、八〇〇	二四、〇〇〇					

三、トータリゼーター　Totalizator

一票一圓トシ出場馬ノ内第一着馬ヲ豫想シ其ノ馬ノ番號ヲ記載シタル馬券ヲ買フモノニシテ一票ノ價ヲ異ニスルノ外全然パリミューチュエルト同一ナリ

四、キヤッシユ、スウイープス　Cash sweeps

一票五圓及十圓（競馬ノ種類ニヨリ定ム）トシ乘馬ノ合圖鐘ノ鳴リシ後ニ抽籤ス抽籤器ノ一ニ出場馬ノ番號ヲ記シタル駒ヲ出場馬數丈ケ入レ他ノ一ノ抽籤器ニ馬券ノ番號ト同一番號ヲ記シタル駒ヲ馬券數丈ケ入レ置キ兩抽籤器ヨリ一駒ツツ抽籤シ其ノ番號ヲ組合セ置キ此ノ組合ニ洩レタルモノハ凡テ無配當トナル

右ニヨリ組合セタルモノハ左記ニ依リ分配ス

（一）第一、第二、第三着トナラサルモノニハ一票十圓ノトキハ二十圓、五圓ノトキハ十圓即チ馬券ノ價ノ二倍ノ配當金ヲ與フ

（二）第一、第二、第三着トナリタルモノニハ馬券賣上總金額ヨリ一割ヲ倶樂部ノ收入、五分ヲ赤十字社寄附金トシテ差引キ其ノ殘額ヨリ更ニ前項ノ金額ヲ差引キ

タル殘額ヲ第一着七割第二着二割第三着一割ノ割合ニ分配ス例ヘハ左ノ如シ

抽籤順	出場番號ノ抽籤器ヨリ抽籤シタル番號	馬券ノ番號ノ抽籤器ヨリ抽籤シタル番號	競走ノ結果
第一	四	三五〇	
第二	三	一、五〇二	第二着
第三	六	二一	
第四	一	二七五	第一着
第五	七	一、二一〇	
第六	五	四〇二	
第七	二	一、八〇〇	第三着

右ノ場合ニ於テ馬券ノ二七五番一着馬券ノ一、五〇二番二着馬券ノ一、八〇〇番三着ノ配當ヲ受ケ馬券ノ他ノモノ即チ三五〇番、二一番、一、二一〇番四〇二番ハ單ニ其ノ馬券ノ倍額ノ配當ヲ受クルノミナリ

今一票五圓馬券ノ賣上總金額二〇、〇〇〇圓トスレハ

倶樂部收入　二、〇〇〇圓

赤十字社寄附金　一、〇〇〇圓

第一、第二、第三着トナラサル馬券ニ對スル配當四〇圓

差引總配當額　一六、九六〇圓

此ノ七割　一一、八七二圓　第一着配當額

二割　三、三九二圓　第二着配當額

一割　一、六九六圓　第三着配當額

大正十一年十一月二十日印刷
大正十一年十二月一日發行

馬政局

東京市京橋區弓町九番地
印刷人　森利衛

東京市京橋區鈴屋町三番地
印刷所　森彩雲堂印刷所

国立公文書館
National Archives of Japan

競馬法案

国立公文書館
National Archives of Japan

競馬法

第一條　馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依ル競馬ヲ行フコトヲ得

第二條　年三回以上競馬ヲ開催セムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

競馬開催ノ期間ハ毎回四日內トス

第三條　競馬ヲ開催スルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徵收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル

勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

国立公文書館
National Archives of Japan

第五條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條　第一條ノ法人ハ勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍内ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法竝前條ノ拂戻金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一以内ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國税ニ次クモノトス

第九條　主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十條　第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一條ノ法人ハ毎事業年度終了後三月内ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十一條　第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十三條　主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

国立公文書館 National Archives of Japan

二 勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

三 役員ノ解任

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者

五 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

三 勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

国立公文書館 National Archives of Japan

競馬法案理由書

馬産ノ現狀ニ鑑ミ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルカ爲競馬法ヲ制定スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

国立公文書館
National Archives of Japan